

第1章 調査の概要

1 調査の目的

長崎市男女共同参画推進条例第16条の規定に基づき、職場、学校、地域、家庭その他のあらゆる分野における男女共同参画に関する調査研究を行い、その結果を第2次男女共同参画基本計画後期行動計画の策定等、長崎市の男女共同参画の推進に関する施策に反映する。

2 調査内容

男女共同参画に関する意識調査

3 調査対象

- (1) 母集団 市内に住所を有する年齢「20代」「30代」「40代」「50代」「60代以上」の年代別に各男女150人
- (2) 標本数 1,500人
- (3) 住民基本台帳からの無作為抽出

4 調査時期

平成26年8月

5 調査方法

郵送による配付・回答

6 調査項目

1 男女共同参画社会に関する意識について

- (1)各分野における男女の地位
- (2)男女が社会のあらゆる分野でもっと対等になるために必要なこと
- (3)女性が職業をもつこと
- (4)女性が増えるとよい職業や役職
- (5)男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと
- (6)男女共同参画に関係する用語の認知度

2 家庭生活について

- (7)家庭、結婚・離婚についての意見
- (8)家庭生活、仕事、地域活動の優先順位
- (9)家庭での育児・介護等に対する社会的評価のあり方
- (10)家庭での役割分担
- (11)配偶者が家庭で果たす役割への満足度

3 職業、職場について

- (12)働いている理由（有職者）
- (13)職場における男女間の待遇の差
- (14)職に就いていない理由（無職者）
- (15)性別にかかわらず各自が能力を発揮して働くために必要なこと

4 配偶者等からの暴力（DV）に関する意識について

- (16)身近な所でのDVの有無
- (17)DVに該当する行為の範囲
- (18)DV相談窓口の認知度
- (19)長崎市によるDV防止に関する広報・啓発の認知度

5 その他

- (20)長崎市が男女共同参画社会実現のため、今後注力すべきこと
- (21)長崎市が男女共同参画社会を実現するためのアイデアや意見（自由記述）

○回答者の属性

- (1)性別、(2)年齢（年代区分）、(3)職業（雇用形態区分）、(4)未婚・既婚の別
- (5)世帯構成、(6)子の有無

第2章 調査結果

回収結果

- (1) 配布数 1,500 件 …①
- (2) 回収数 478 件 …②
- (3) 回収率 31.9%【②/①】

(4) 集計方法

問 1 (3P) ~ 問 20 (38P) までの調査結果の数値は、原則として有効票のみの回答率 (%) を表記しており、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記する。

このため、単数回答の合計が 100.0% とならない場合 (99.9%、100.1%) や、1 人の回答者が複数回答してもよい質問では、回答率の合計が 100% を上回ることがある。

なお、各項目ごとの女性、男性それぞれの回答総数が異なるため、グラフにおける表示 (%) は、女性・男性・全体の各回答数を分母として集計している。

1 男女共同参画社会に関する意識について

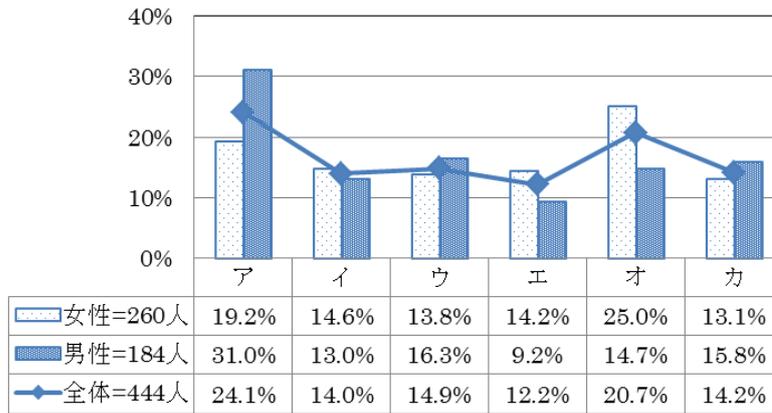
問1 現在、次の 1~8 の分野で、男女の地位は対等であると思われますか。それぞれ、ア~カで当てはまるものを 1 つ選んでください。

項目 (単位：%)	ア 対等である	イ 女性 が 重 い 視 る	ウ ればど て女 ち い 性 ら る が か 重 と 視 い さ え	エ 男性 が 重 視 さ れ て い る	オ ればど て男 ち い 性 ら る が か 重 と 視 い さ え	カ ど ち ら と も い え な い
1 家庭生活 (回答数=444 人)	24.1	14.0	14.9	12.2	20.7	14.2
2 職場 (回答数=437 人)	13.0	2.5	2.3	37.8	33.9	10.5
3 自治会など地域活動の場 (回答数=446 人)	21.5	4.0	7.8	15.0	24.4	27.1
4 学校教育の場 (回答数=437 人)	37.3	5.7	7.1	7.1	15.3	27.5
5 法律や制度の面 (回答数=443 人)	23.7	2.5	5.4	19.4	28.0	21.0
6 政治の場 (回答数=450 人)	8.0	0.7	0.4	48.4	33.6	8.9
7 社会の慣習・しきたり (回答数=448 人)	7.6	0.9	2.5	35.0	40.4	13.6
8 社会全体 (回答数=451 人)	9.8	0.7	2.4	22.8	50.3	14.0

問1の項目別内訳

- | | |
|-----------------------|---------------|
| ア. 対等である | イ. 女性が重視されている |
| ウ. どちらかといえば女性が重視されている | エ. 男性が重視されている |
| オ. どちらかといえば男性が重視されている | カ. どちらともいえない |

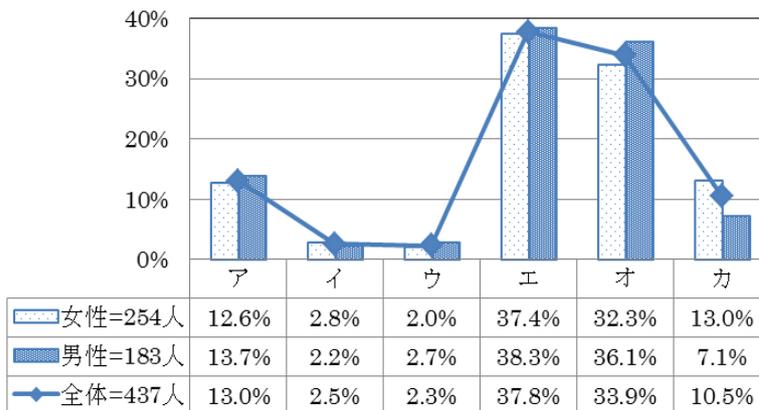
問1-1 家庭生活



家庭生活では、「ア.対等である」と回答した人が、全体で24.1%と最も高く、特に男性は31.0%となっており、女性の19.2%と比較すると、11.8ポイントも高くなっている。

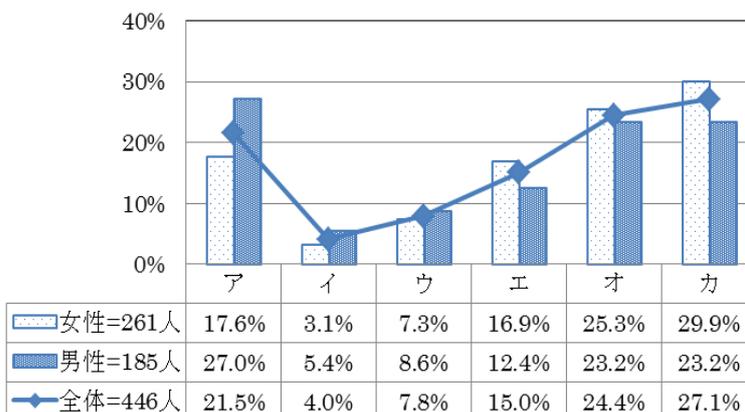
また、女性で最も高いのは、「オ.どちらかといえば男性が重視されている」が25.0%となっている。

問1-2 職場



職場では、「エ.男性が重視されている」と回答した人が、全体で37.8%と最も高く、「オ.どちらかといえば男性が重視されている」の33.9%と合わせると71.7%となり、職場では、男性が重視されていると思っているようである。

問1-3 自治会など地域活動の場



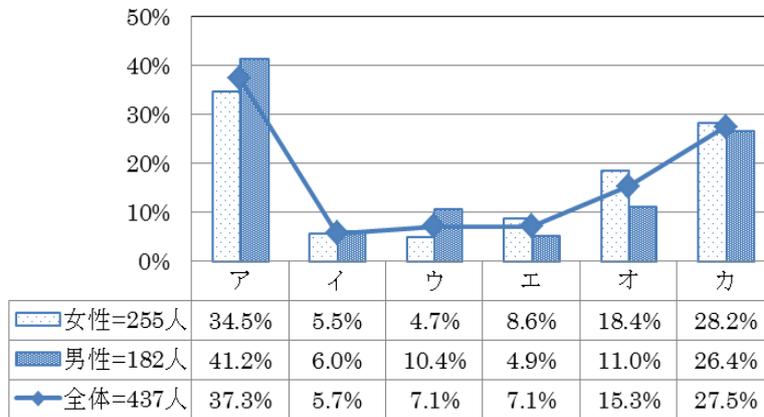
自治会など地域活動の場では、「カ.どちらともいえない」が全体で27.1%と最も高く、続いて「オ.どちらかといえば男性が重視されている」が24.4%となっている。

なお、「ア.対等である」は女性 17.6%、男性は27.0%と男女間では 9.4ポイントの差がでている。

問1の項目別内訳

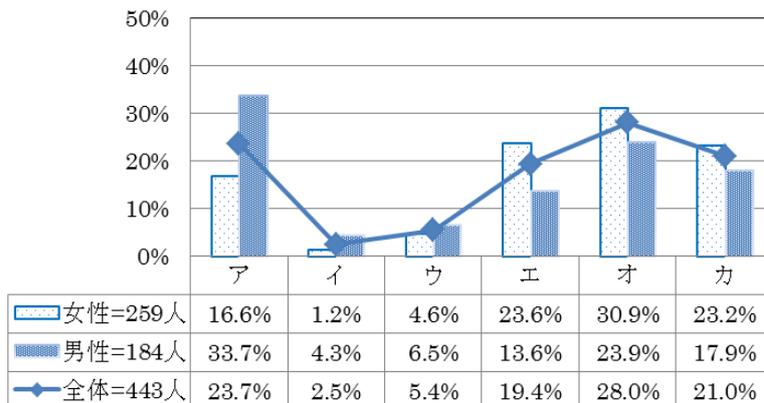
- | | |
|-----------------------|---------------|
| ア. 対等である | イ. 女性が重視されている |
| ウ. どちらかといえば女性が重視されている | エ. 男性が重視されている |
| オ. どちらかといえば男性が重視されている | カ. どちらともいえない |

問1-4 学校教育の場



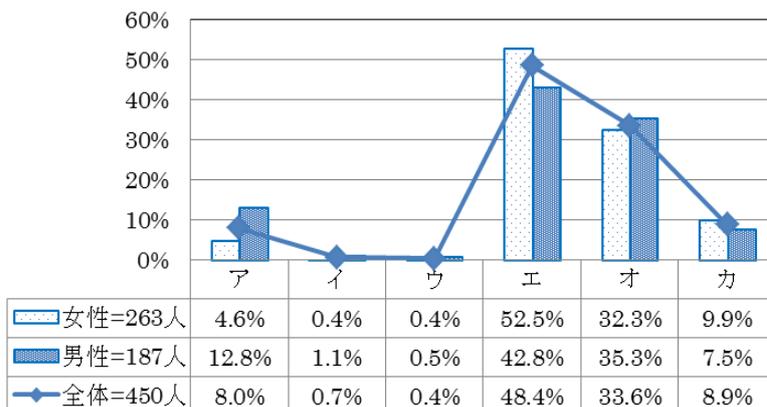
学校教育の場では、「ア. 対等である」が全体で37.3%と最も高いが、「カ. どちらともいえない」と回答した人も27.5%あり、意見が分かれているようである。

問1-5 法律や制度の面



法律や制度の面では、「オ. どちらかといえば男性が重視されている」が全体で28.0%と最も高く、「エ. 男性が重視されている」の19.4%と合わせると47.4%となり、約半数の人が男性が重視されていると思っているようである。

問1-6 政治の場

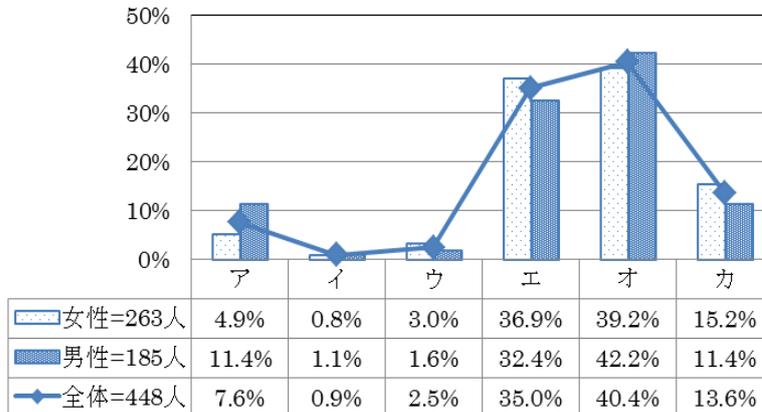


政治の場では、「エ. 男性が重視されている」が全体で48.4%と最も高く、「オ. どちらかといえば男性が重視されている」の33.6%と合わせると82.0%の人が、男性が重視されていると思っているようである。

問1の項目別内訳

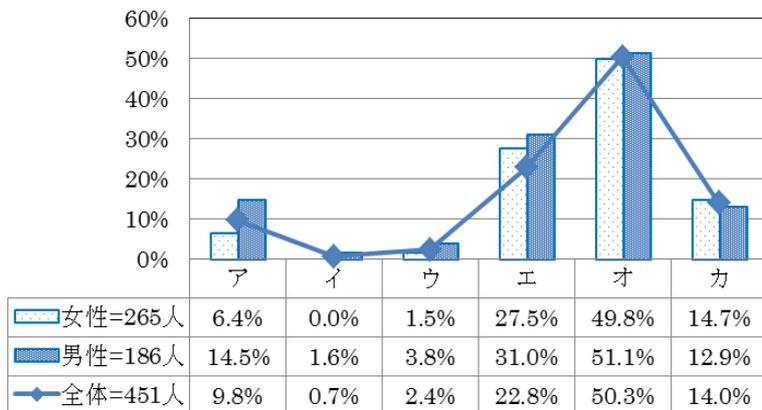
- | | |
|-----------------------|---------------|
| ア. 対等である | イ. 女性が重視されている |
| ウ. どちらかといえば女性が重視されている | エ. 男性が重視されている |
| オ. どちらかといえば男性が重視されている | カ. どちらともいえない |

問1-7 社会の慣習・しきたりなど



社会の慣習・しきたりなどでは、「オ.どちらかといえば男性が重視されている」が全体で40.4%と最も高く、「エ.男性が重視されている」の35.0%と合わせると75.4%の人が、男性が重視されていると思っているようである。

問1-8 社会全体

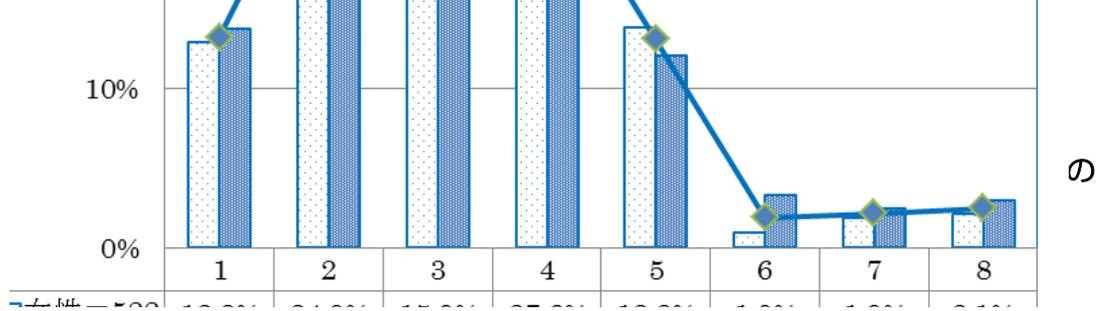


社会全体では、「オ.どちらかといえば男性が重視されている」が全体で50.3%と最も高く、「エ.男性が重視されている」の22.8%と合わせると73.1%の人が、男性が重視されていると思っているようである。

男女の地位について、1～8の項目で質問を行ったが、「対等である」と思っている割合は、『4 学校教育の場』が37.3%と最も高く、続いて『1 家庭生活』の24.1%となっているが、『8 社会全体』では9.8%となっており、男女の地位が対等とは言い難い現状である。

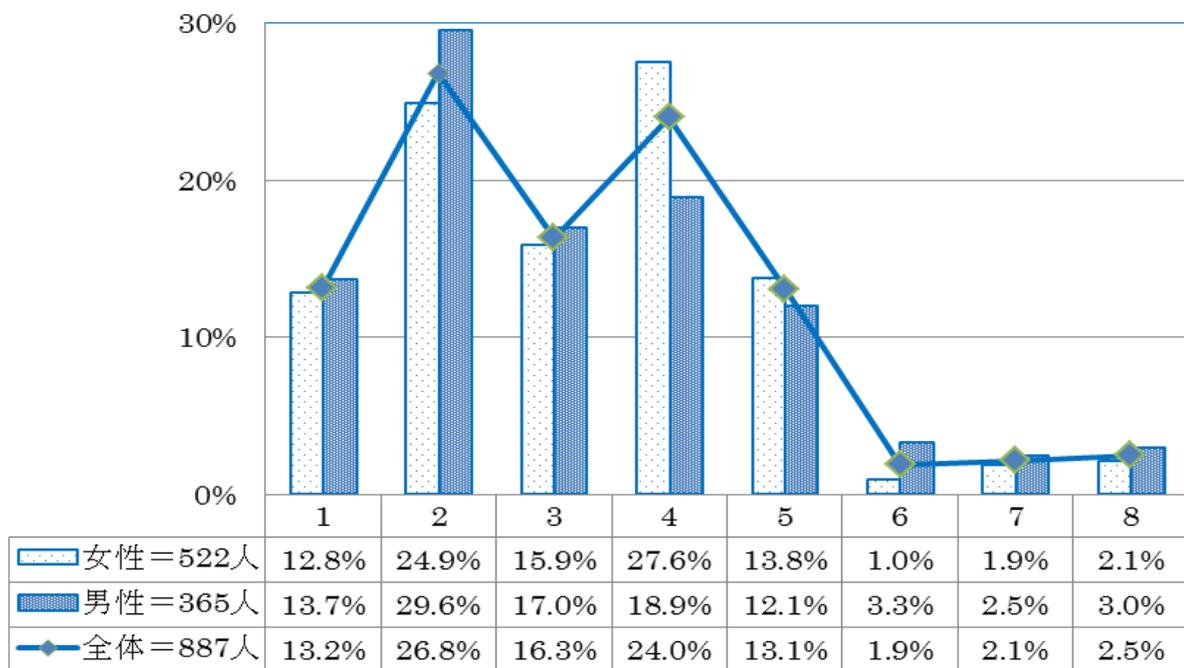
また、「男性が重視されている」と「どちらかといえば男性が重視されている」と思っている人の割合が高いのは、『6 政治の場』で82.0%、続いて『7 社会の慣習・しきたりなど』で75.4%となっており、『8 社会全体』でも73.1%と、社会的に男性が重視されていると思っているようである。

なお、「女性が重視されている」と「どちらかといえば女性が重視されている」と思っている人の割合が最も高いのは『1 家庭生活』の28.9%で、「エ.男性が重視されている」と「オ.どちらかといえば男性が重視されている」と思っている人の割合が最も高い『6 政治の場』の82.0%と比べると、53.1ポイントの差がある。



- 1 法律や制度の上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること
- 2 男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
- 4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 6 特に必要なことはない
- 7 わからない
- 8 その他

(回答数=887、単位：%)



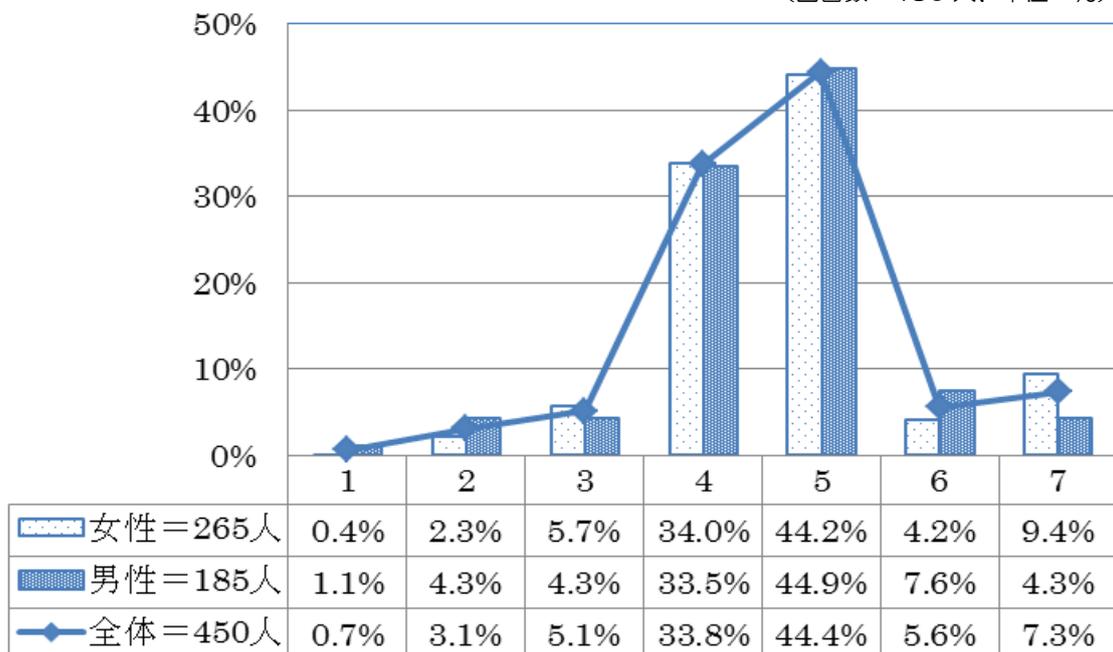
男女が対等な立場で協力するために必要なものについて、1～8の項目で質問を行ったが、「2 男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が全体で26.8%と最も高く、続いて「4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が24.0%で、この2つを合わせると50.8%と過半数を占めている。

なお、「4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」では、女性27.6%に対し、男性は18.9%と8.7ポイントの差がある。

問3 一般的に、女性が職業を持つことについて、どのように思われますか。
次の1~7の中から当てはまるものを1つ選んでください。

- 1 女性は職業を持たない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 4 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び職業につく方がよい
- 5 結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい
- 6 わからない
- 7 その他
- 8 無回答
- 9 重複回答

(回答数=450人、単位：%)



女性が職業を持つことについては、「5 結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい」が全体で 44.4%と最も高く、続いて「4 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び職業につく方がよい」が 33.8%となっている。

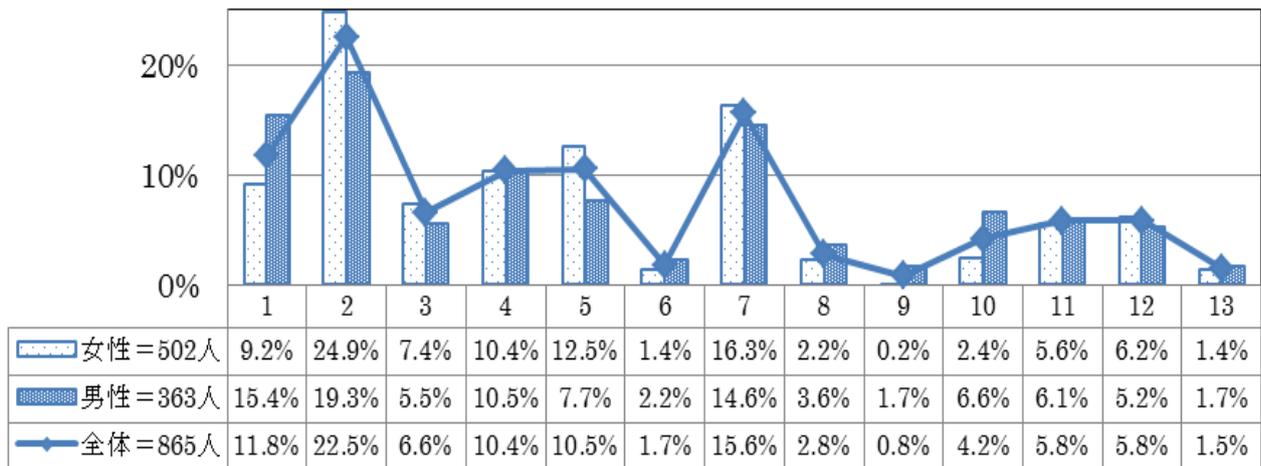
男女別に回答の偏りはほとんどないが、「2 結婚するまでは、職業を持つ方がよい」「3 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」「4 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び職業につく方がよい」の合計は全体で 42.0%となり、結婚や出産、子育て期間の女性の就労については、「5 結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい」の 44.4%と意見が拮抗している。

問4 今後、男女共同参画社会を進めるために、女性が増えた方がよいと思う職業や役職などはどれですか。

次の1～13の中から2つ選んでください。

- 1 都道府県、市（区）町村の首長
- 2 国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員
- 3 都道府県、市（区）町村の審議会等の委員
- 4 国家公務員・地方公務員の管理職
- 5 裁判官、検察官、弁護士、医師
- 6 大学教授
- 7 企業の経営者・管理職
- 8 労働組合の幹部
- 9 農協・漁協の役員
- 10 自治会長、町内会長等
- 11 特にない
- 12 わからない
- 13 その他

(回答数=865人、単位：%)



女性が増えた方がよいと思う職業や役職については、「2 国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」が全体で22.5%と最も高く、続いては「7 企業の経営者・管理職」が15.6%となっている。

また、少なかったのは「9 農協・漁協の役員」が0.8%、続いて「6 大学教授」が1.7%となっており、「11 特にない」とした人も1.5%となっている。

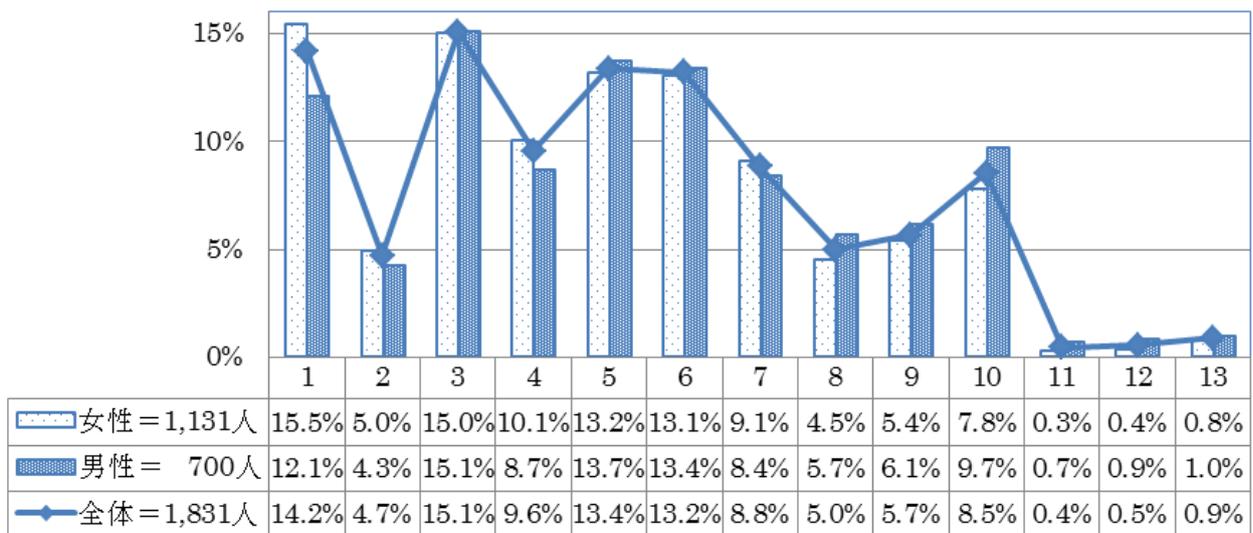
「1 都道府県、市（区）町村の首長」「2 国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」「5 裁判官、検察官、弁護士、医師」「10 自治会長、町内会長等」においては、男性と女性の回答に5%前後の差があった。

政府は社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%とすることを目標にしている。

問5 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 次の1～13の中から必要だと思うものをすべて選んでください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する、女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 まわりの人が夫婦間における家事等の役割分担について、当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 特に必要なことはない
- 12 わからない
- 13 その他

(回答数=1,831人、単位：%)

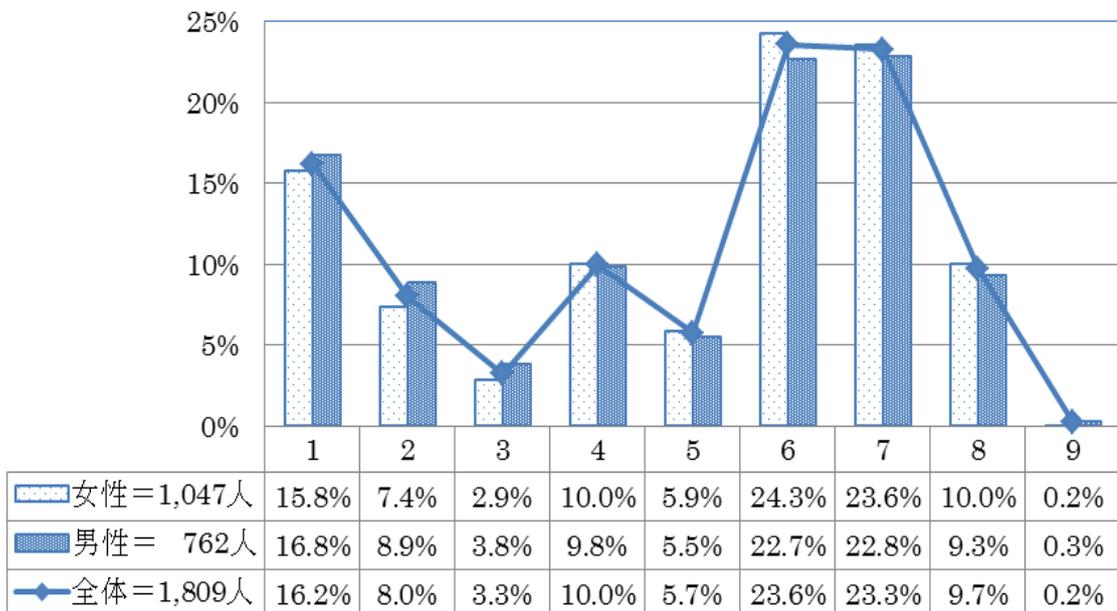


男性が女性とともに家事などへ積極的に参加していくために必要なことについて質問したところ、「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が全体で 15.1%と最も高く、続いては「1 男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」が 14.2%となっており、1・3・5・6 を合わせると約 5 割を占める。

問6 次の1～9の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 女子差別撤廃条約
- 3 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 4 ジェンダー
- 5 固定的な性別役割分担
- 6 DV（ドメスティック・バイオレンス）
- 7 セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
- 8 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 9 この中に、見たり聞いたりしたものはなし

（回答数=1,809人、単位：％）



見たり聞いたりしたことがあるものでは、「6 DV（ドメスティック・バイオレンス）」が全体で23.6%と最も高く、続いて「7 セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が23.3%と、6と7を合わせると半数近くになるが、「3 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」は3.3%と、他に比べて認知度が低いようである。

2 家庭生活について

問7 家庭、結婚、離婚については、様々な意見がありますが、あなたはどう思われますか。
次の1～9について、ア～カの中から当てはまるものを1つ選んでください。

項目 (単位：%)	ア 賛 成	イ ど ち ら か と い え ば 賛 成	ウ ど ち ら と も い え な い	エ ど ち ら か と い え ば 反 対	オ 反 対	カ わ か ら な い
1 結婚は個人の自由であるから、結婚 してもしなくても、どちらでもよい (回答数=451人)	47.0	18.0	17.3	11.5	4.9	1.3
2 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき である (回答数=453人)	6.4	15.0	37.5	15.5	24.3	1.3
3 女性は結婚したら、自分自身のことより 夫や子どもなど、家族を中心に考えて 生活した方がよい (回答数=452人)	7.3	17.5	34.3	20.6	18.8	1.5
4 結婚しても、必ずしも子どもを持つ 必要はない (回答数=452人)	20.1	11.1	32.7	16.6	14.2	5.3
5 子どもを産むか産まないかは、話し合 いのうえ、出産する女性自身の考えや 判断を尊重すべき (回答数=452人)	30.1	27.9	22.6	9.7	6.4	3.3
6 女の子は女の子らしく、男の子は男 の子らしく育てたほうがよい (回答数=451人)	22.4	23.3	29.9	9.5	11.5	3.3
7 男の子には女の子よりも高等教育を 受けさせたい (回答数=451人)	3.5	8.9	41.5	10.9	31.9	3.3
8 男の子も、家事ができるように育て る方がよい (回答数=454人)	56.4	33.0	5.9	1.5	1.8	1.3
9 結婚しても、互いに協力し合う家庭 を築けない場合は、離婚を選択しても よい (回答数=453人)	25.4	27.2	25.8	6.8	8.2	6.6

家庭、結婚、離婚について1～9の項目で、「ア賛成」と「イ.どちらかといえば賛成」を合わせて多かった項目は、『8男の子も、家事ができるように育てる方がよい』が全体で89.4%と最も高く、続いて『1結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい』が65.0%、『5子どもを産むか産まないかは、話し合のうえ、出産する女性自身の考えや判断を尊重すべき』が58.0%となっている。

なお、「ウ.どちらともいえない」が多かった項目は、『7男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい』が全体で41.5%と最も高く、続いて『2夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』の37.5%となっている。

問7の項目別内訳

ア.賛成

イ.どちらかといえば賛成

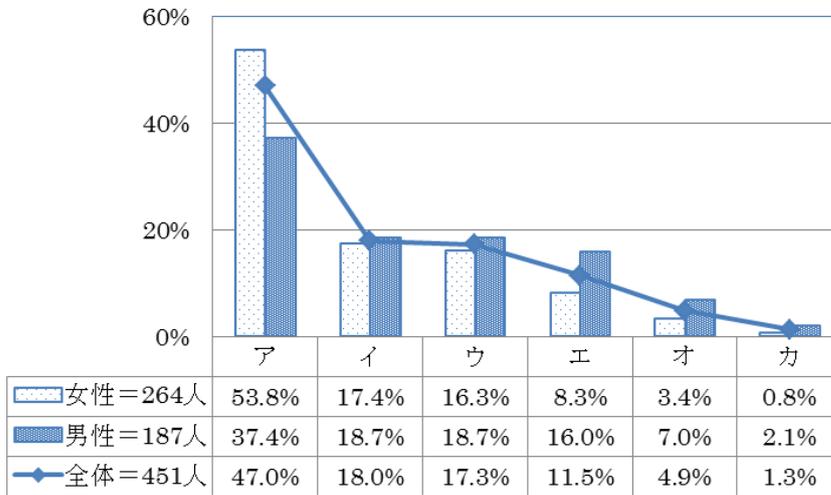
ウ.どちらともいえない

エ.どちらかといえば反対

オ.反対

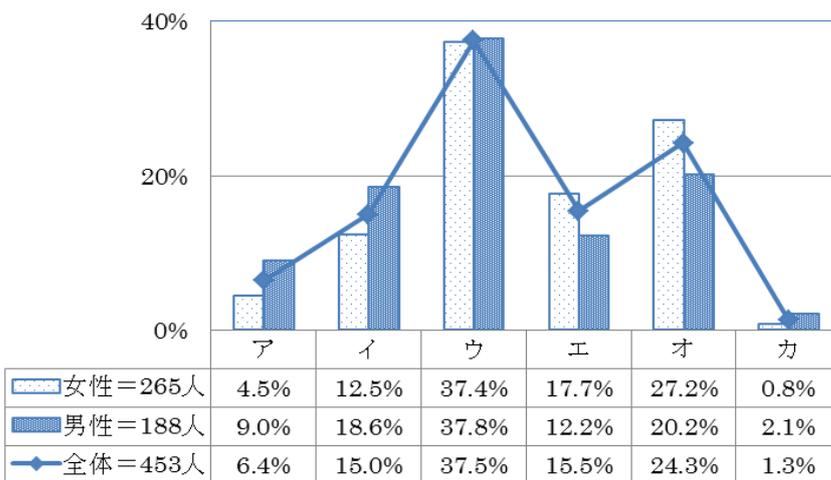
カ.わからない

1.結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい



「ア.賛成」が全体で47.0%と最も高いが、女性の53.8%に対して、男性は37.4%と16.4ポイントの差があり、男女で結婚についての考え方は違う結果となった。

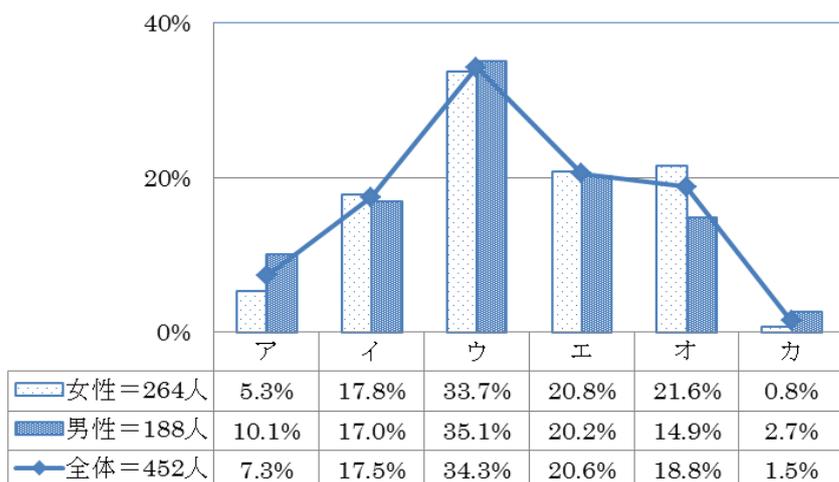
2.夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



「ウ.どちらともいえない」が全体で37.5%と最も高く、男女差はほぼない。続いて、「オ.反対」は24.3%となっている。

「ア.賛成」と「イ.どちらかといえば賛成」と思う人は全体の2割を超えている。

3.女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど、家族を中心に考えて生活したほうがよい



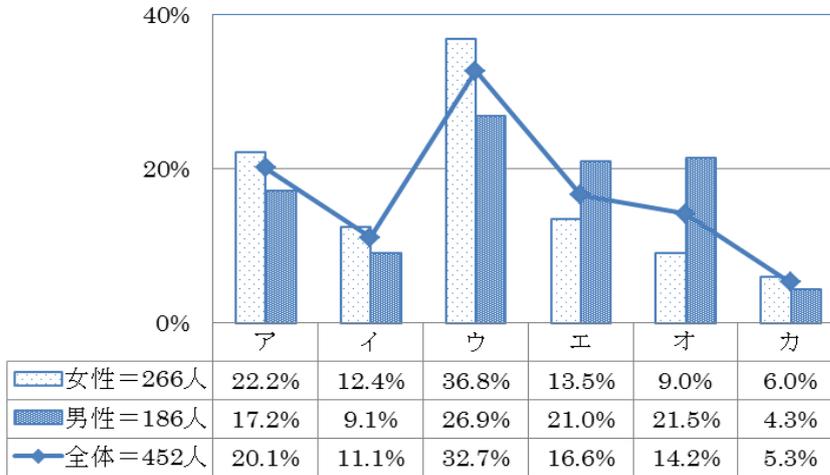
「ウ.どちらともいえない」が全体で34.3%と最も高く、男女差はほぼない。

続いて、「エ.どちらかといえば反対」は20.6%となっている。

問7の項目別内訳

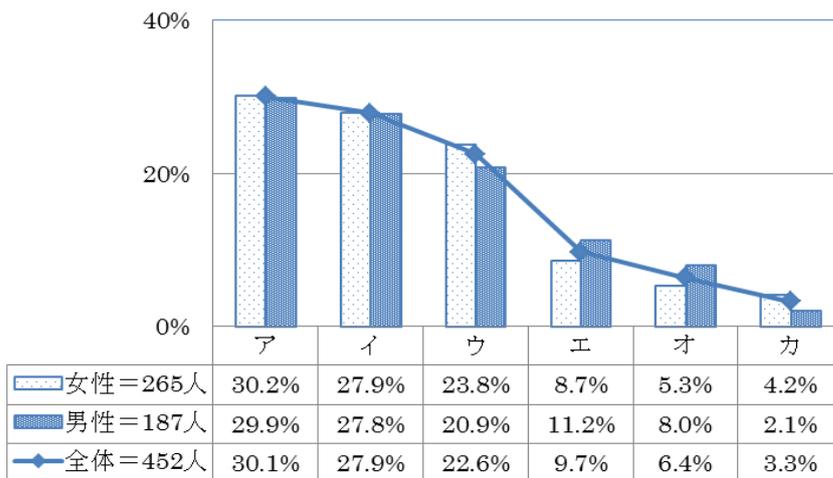
ア.賛成 イ.どちらかといえば賛成 ウ.どちらともいえない
 エ.どちらかといえば反対 オ.反対 カ.わからない

4.結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



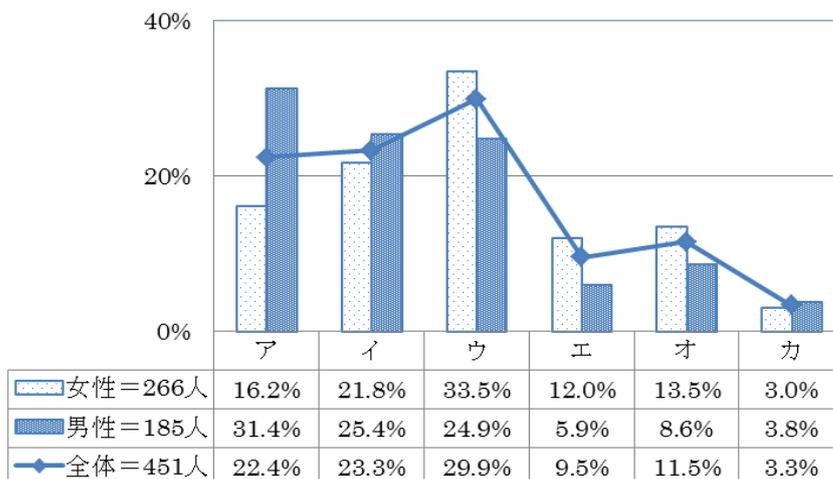
「ウ.どちらともいえない」が全体で32.7%と最も高いが、女性の36.8%に対し、男性は26.9%と、9.9ポイントの差がある。

5.子どもを産むか産まないかは、話合いのうえ、出産する女性自身の考えや判断を尊重すべき



「ア.賛成」が全体で30.1%と最も高く、「イ.どちらかといえば賛成」の27.9%と合わせると58.0%となり、女性の考えを尊重すべきという意見が半数を超えている。

6.女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい

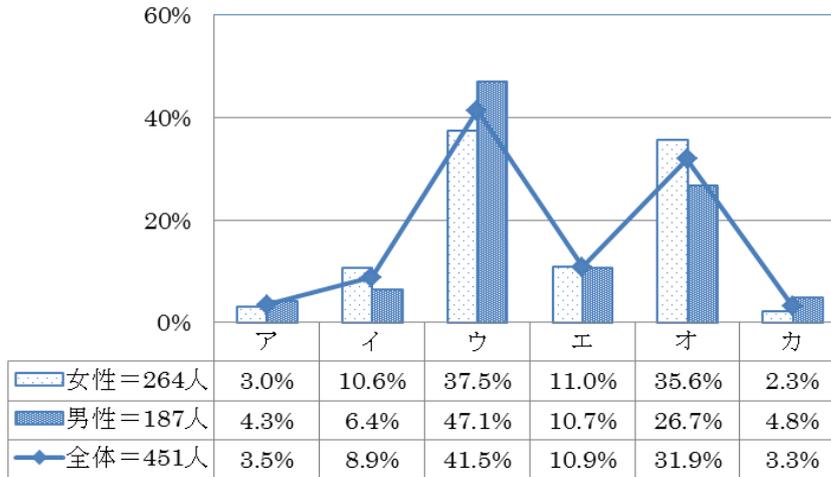


「ウ.どちらともいえない」が全体で29.9%と最も高く、女性も33.5%と最も高いが、男性は「ア.賛成」の31.4%と、「イ.どちらかといえば賛成」の25.4%となっており、男女の意見に差がある。

問7の項目別内訳

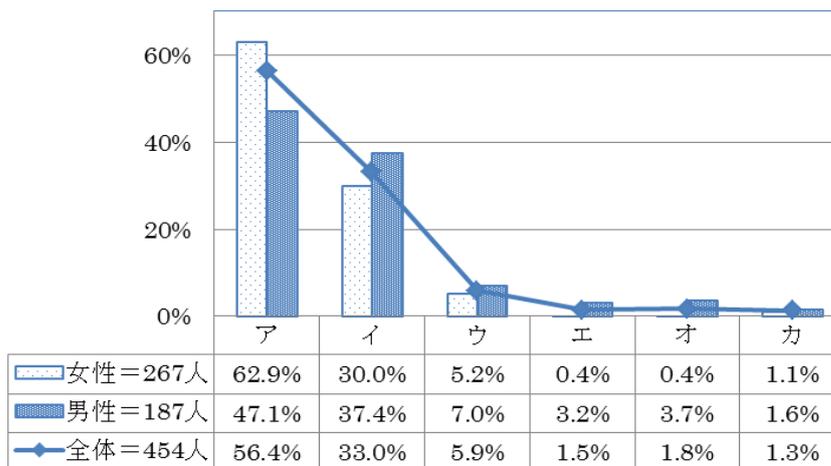
ア.賛成 イ.どちらかといえば賛成 ウ.どちらともいえない
 エ.どちらかといえば反対 オ.反対 カ.わからない

7.男の子には女の子よりも高等教育を受けさせたい



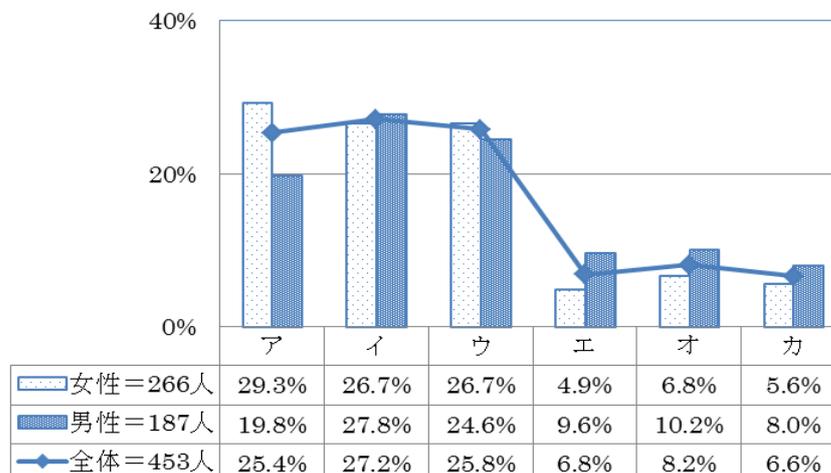
「ウ.どちらともいえない」が全体で41.5%と最も高く、「オ.反対」の31.9%と「ウ.どちらともいえない」の10.9%を合わせると42.8%となる。

8.男の子も、家事ができるように育てる方がよい



「ア.賛成」が全体で56.4%と半数以上を占めており、男女間で15.8ポイントの差があるものの、男女共に最も高く、「イ.どちらかといえば賛成」の33.0%と合わせると89.4%となる。

9.結婚しても、互いに協力し合う家庭を築けない場合は、離婚を選択してもよい

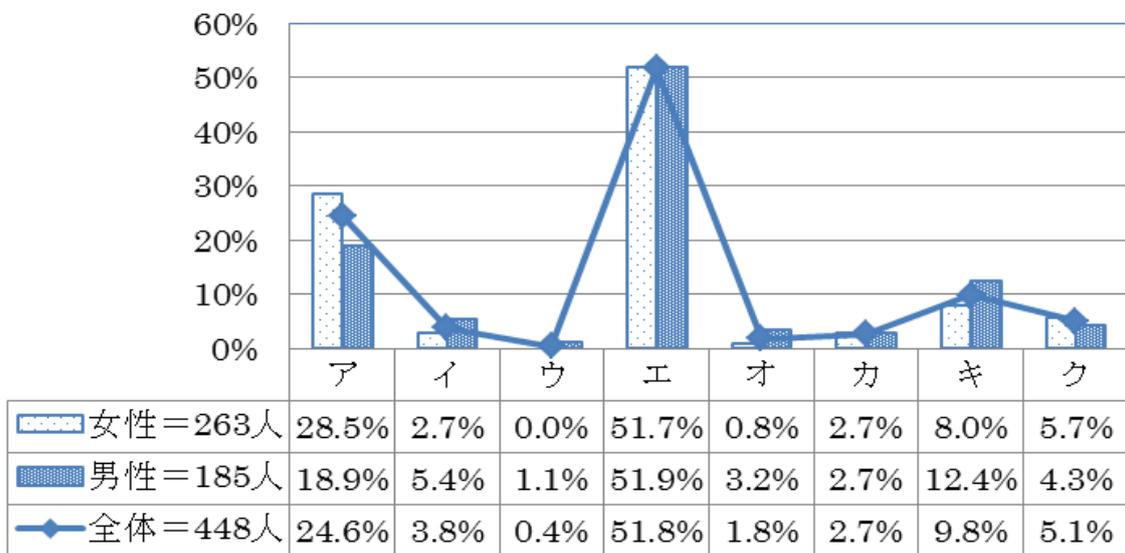


「イ.どちらかといえば賛成」が全体で27.2%と最も高く、「ア.賛成」の25.4%と合わせると52.6%と半数を超えるが、「ア.賛成」では男女間で9.5ポイントの差があり、女性の賛成意見が多い。

問8 生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、おたずねします。
 次の表で「1 あなたの希望・理想」、「2 あなたの現状・現実」に最も近いものを、
 ア～クの中からそれぞれ1つ選んでください。

項目 (単位：%)	ア 家庭生活を優先	イ 仕事を優先	ウ 地域活動を優先	エ 家庭生活・仕事を ともに優先	オ 仕事と地域活動 とともに優先	カ 家庭生活と地域 活動とともに優先	キ どれも優先	ク わからない
1 あなたの希望・理想 (回答数=448人)	24.6	3.8	0.4	51.8	1.8	2.7	9.8	5.1
2 あなたの現状・現実 (回答数=447人)	23.3	32.7	0.4	26.4	2.9	3.4	4.0	6.9

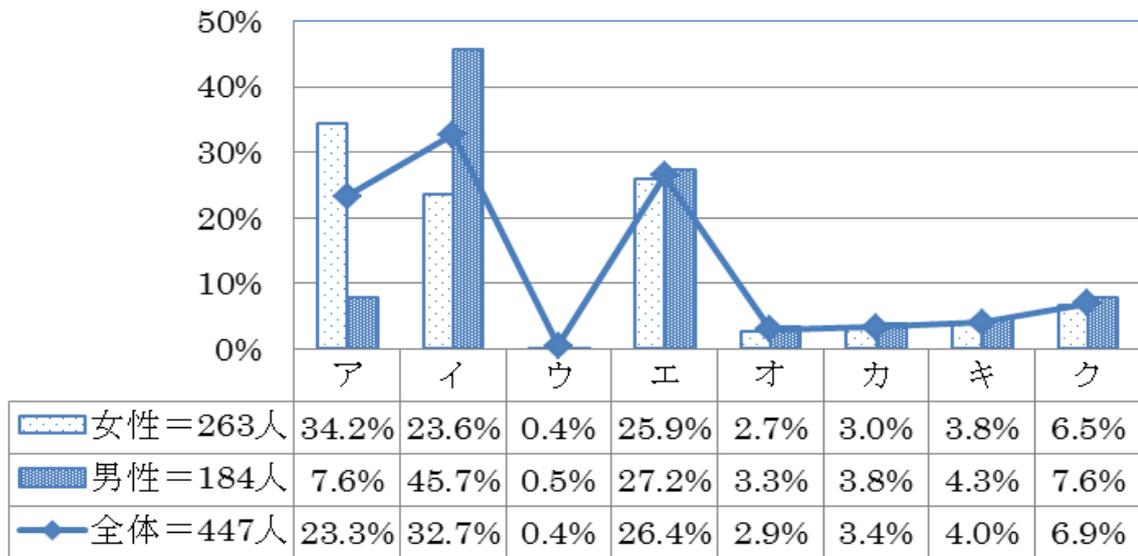
問8-1



生活の中での優先度について、希望・理想としては、「エ.家庭生活・仕事をともに優先」が全体で51.8%と最も高く、男女差はほぼない。

続いて、「ア.家庭生活を優先」が全体で24.6%となっており、女性の28.5%に対し、男性は18.9%と9.6ポイントの差がある。

問8-2



生活の中での優先度について、現状・現実としては、「イ.仕事を優先」が32.7%と最も高く、特に男性は45.7%と半数近くとなっており、女性の23.6%と比較すると22.1ポイントという大きな差がある。

一方、「ア.家庭生活を優先」では、女性の34.2%に対し、男性は7.6%となっており、26.6ポイントの差がある。

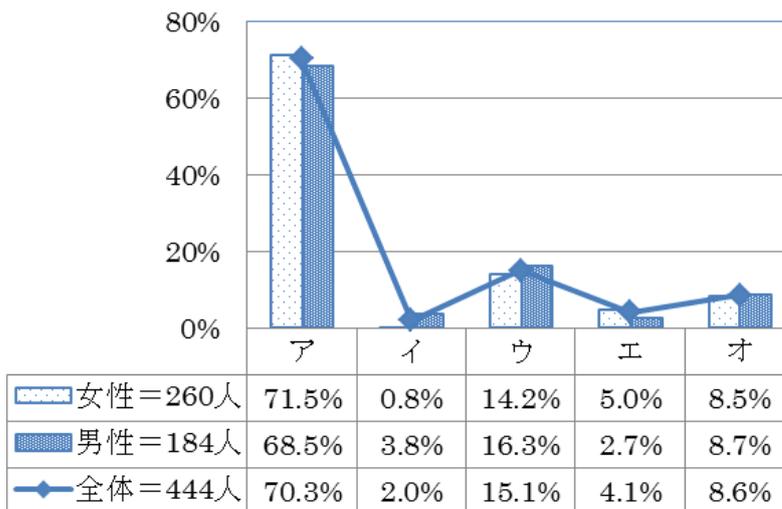
つまり、希望としては、「家庭生活・仕事をともに優先」や「家庭生活を優先」したいと思っているが、現実として男性は「仕事を優先」しており、女性は「家庭生活を優先」しているという現実をうかがうことができる。

問9 「家庭で担われている『育児』『介護』などについては、社会的にも重要なので、社会全体で評価し、支えていこう」という意見があります。あなたは、どのような形で評価されるのが望ましいと思われますか。

次の表の1～4について、ア～オの中から当てはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

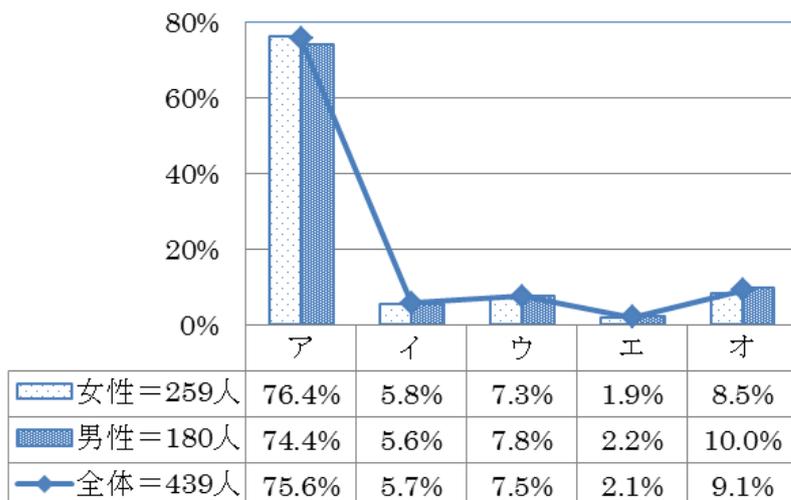
項目 (単位：%)	ア 手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価	イ 表彰するなどして社会的に評価	ウ この役割を経済的に評価する必要はない	エ その他	オ わからない
1 育児 (回答数=444人)	70.3	2.0	15.1	4.1	8.6
2 介護 (回答数=439人)	75.6	5.7	7.5	2.1	9.1
3 育児・介護以外の家事 (回答数=439人)	18.9	6.4	38.0	9.3	27.3
4 自治会などの地域活動 (回答数=442人)	11.1	58.4	11.5	2.3	16.7

問9-1 育児



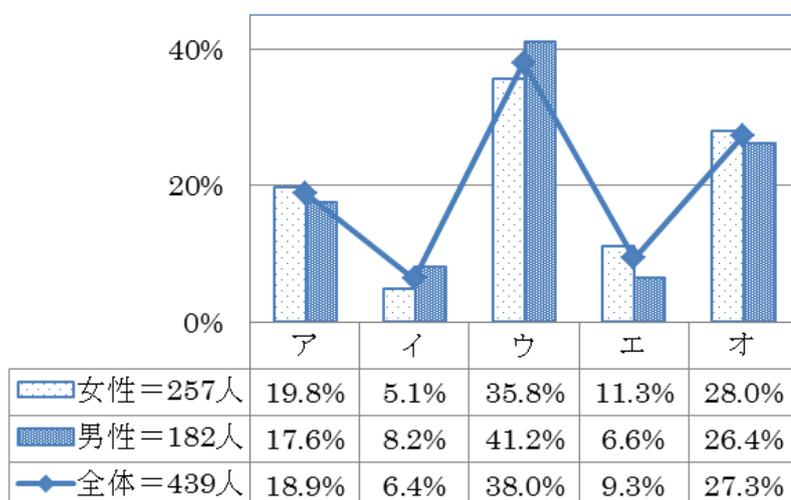
育児に対しての社会的な評価は、「ア.手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価」が全体としては70.3%と最も高く、女性も71.5%、男性も68.5%と共に高い割合を示している。

問9-2 介護



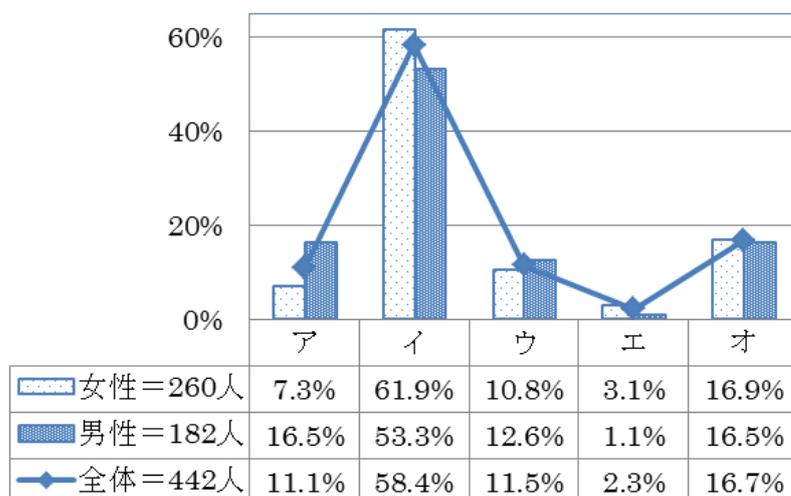
介護に対しての社会的な評価は、「ア.手当の支給や税制上の優遇などで経済的に評価」が全体としては75.6%と最も高く、女性も76.4%、男性も74.4%と共に高い割合を示している。

問9-3 育児・介護以外の家事



育児・介護以外の家事に対しての社会的な評価は、「ウ.この役割を経済的・社会的に評価する必要はない」が全体としては38.0%と最も高く、女性も35.8%、男性も41.2%となっている。また、「オ.わからない」の回答も、男女共に高い。

問9-4 自治会などの地域活動



自治会などの地域活動に対しての社会的な評価は、「イ.表彰するなどして社会的に評価」が全体としては58.4%と最も高く、女性も61.9%、男性も53.3%となっている。

問10 家庭での役割分担について、あなたはどのように思われますか。
 (1) 次の1から9までの場面で、夫婦のどちらがその役割を行うべきと思いますか。
 次の表のア～オの中から当てはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

項 目 (単位：%)	ア おもに妻が 行うべき	イ おもに夫が 行うべき	ウ 夫婦共同で 行うべき	エ その他	オ わからない
1 掃除 (回答数=455人)	15.2	1.5	78.7	2.4	2.2
2 洗濯 (回答数=451人)	29.3	1.1	64.5	3.1	2.0
3 食事の支度、後片づけ (回答数=456人)	22.1	1.1	71.5	2.9	2.4
4 乳幼児の世話 (回答数=449人)	27.4	0.4	67.7	2.0	2.4
5 子どもの教育 (回答数=451人)	3.8	1.6	90.2	1.8	2.7
6 家族の介護 (回答数=449人)	2.4	1.3	89.1	3.1	4.0
7 家計の管理 (回答数=452人)	39.4	5.1	47.1	3.3	5.1
8 PTA・自治会等の活動への参加 (回答数=451人)	12.2	8.0	69.8	3.1	6.9
9 家庭問題における最終的な決定 (回答数=453人)	1.3	27.2	66.7	1.3	3.5

家庭での役割分担について、1～9の項目全てにおいて「ウ.夫婦共同で行うべき」と思っている割合が高く、最も割合が高かったのが、『5 子どもの教育』で90.2%、続いて『6 家族の介護』が89.1%となっている。

なお、「ア.おもに妻が行うべき」で最も割合が高かったのが、『7 家計の管理』で39.4%、「イ.おもに夫が行うべき」で最も割合が高かったのが、『9 家庭問題における最終的な決定』で27.2%となっている。

多くの方は、何でも夫婦共同で行うべきと思っている一方、『2 洗濯』『3 食事の支度、後片づけ』『4 乳幼児の世話』は妻が行うべきと思う人が2割以上、『7 家計の管理』は妻が行うべきと思う人が4割弱となっている。

また、『9 家庭問題における最終的な決定』は夫が行うべきと思っている人が3割弱あり、依然として性別役割分担意識が根強く残っている様子がうかがえる。

問 10- (1) の項目別内訳

ア.おもに妻が行うべき

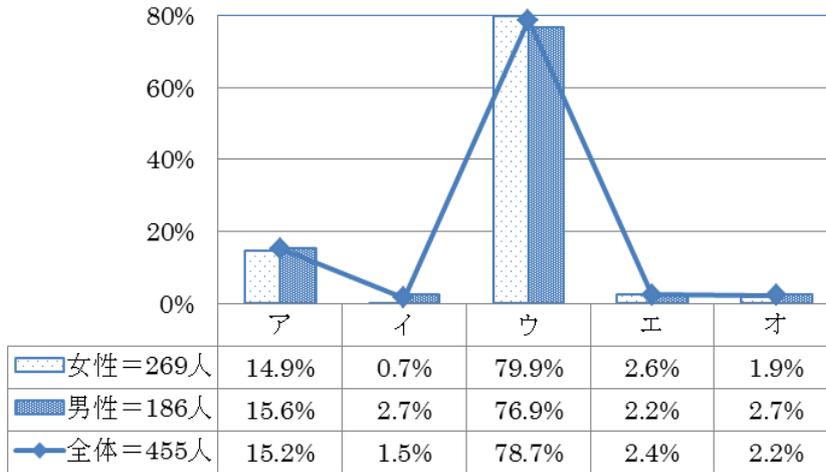
イ.おもに夫が行うべき

ウ.夫婦共同で行うべき

エ.その他

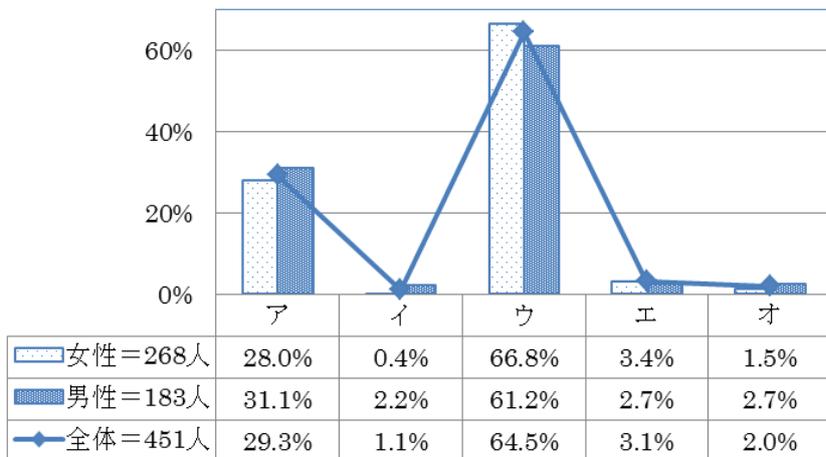
オ.わからない

問10- (1) 1 掃除



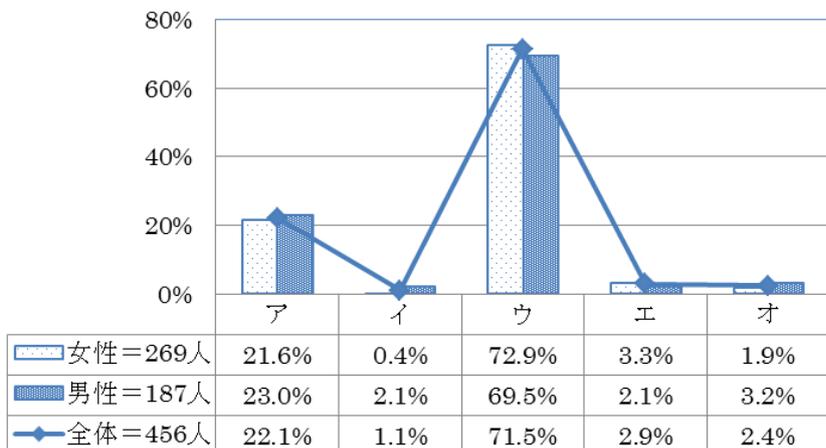
掃除の役割分担では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、78.7%と最も高く、男女差はあまりなかった。一方、「ア. おもに妻が行うべき」と思う人が15%前後いた。

問10- (1) 2 洗濯



洗濯の役割分担では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、64.5%と最も高いが、男女間で5.6ポイントの差があった。一方、「ア. おもに妻が行うべき」と思う人が30%前後いた。

問10- (1) 3 食事の仕度、後片づけ



食事の仕度、後片付けでは、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、71.5%と最も高かった。一方、「ア. おもに妻が行うべき」と思う人が20%以上いた。

問 10- (1) の項目別内訳

ア.おもに妻が行うべき

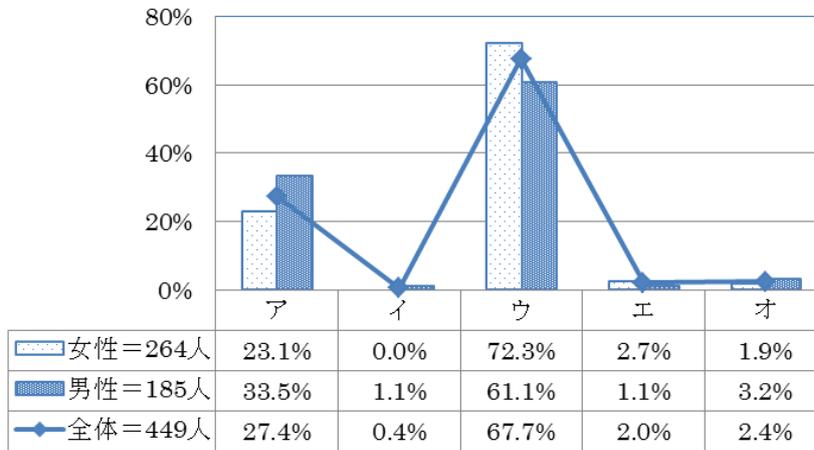
イ.おもに夫が行うべき

ウ.夫婦共同で行うべき

エ.その他

オ.わからない

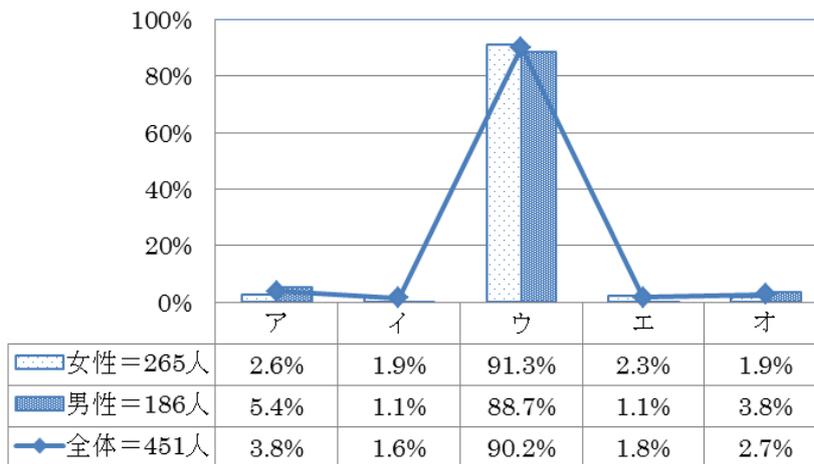
問10- (1) 4 乳幼児の世話



乳幼児の世話では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、67.7%と最も高かったが、男女間では11.2ポイントも差があった。

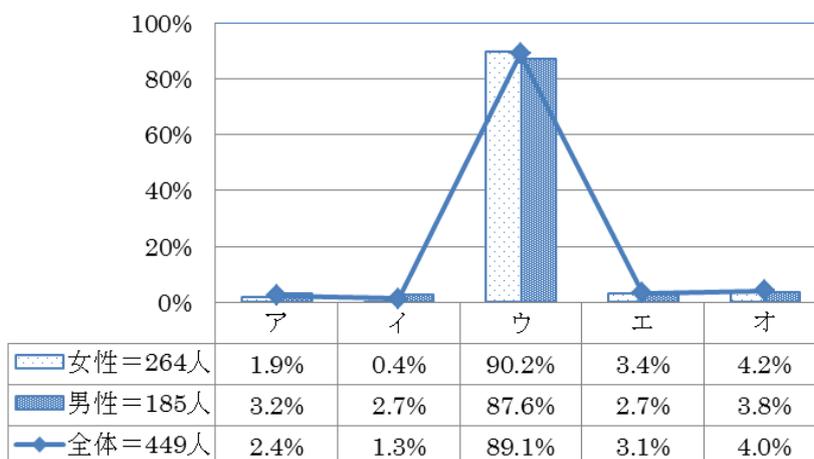
また、「ア.おもに妻が行うべき」と思う人が全体で27.4%いた。

問10- (1) 5 子どもの教育



子どもの教育では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、90.2%と突出して高く、男女差もあまりなく、ほとんどの人が共同で行うべきと思っているようである。

問10- (1) 6 家族の介護



家族の介護では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、89.1%と突出して高く、男女差もあまりなく、ほとんどの人が共同で行うべきと思っているようである。

問 10- (1) の項目別内訳

ア.おもに妻が行うべき

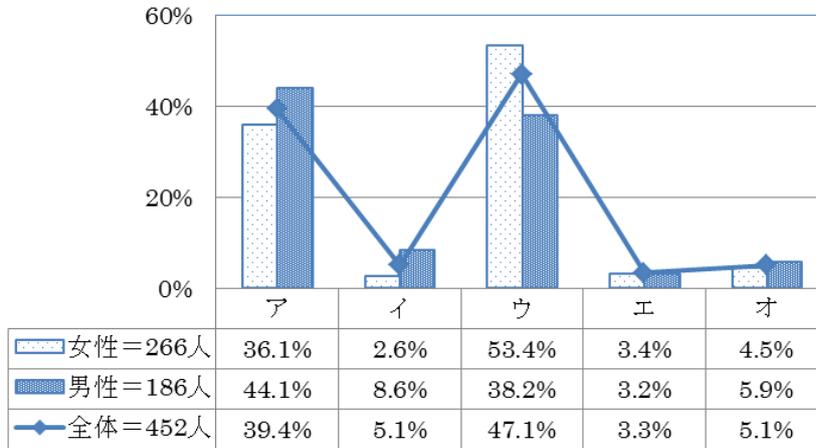
イ.おもに夫が行うべき

ウ.夫婦共同で行うべき

エ.その他

オ.わからない

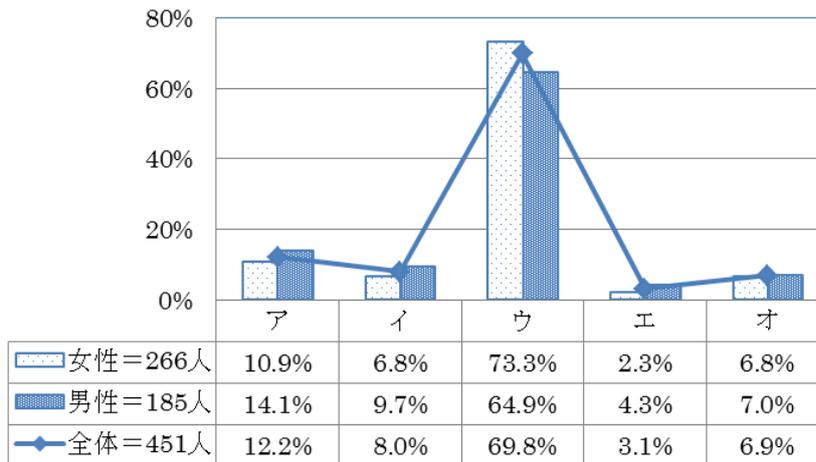
問10- (1) 7 家計の管理



家計の管理では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、47.1%と最も高かったが、男女間では15.2ポイントという大きな差があった。

「ア. おもに妻が行うべき」と思う人が全体の39.4%であった。

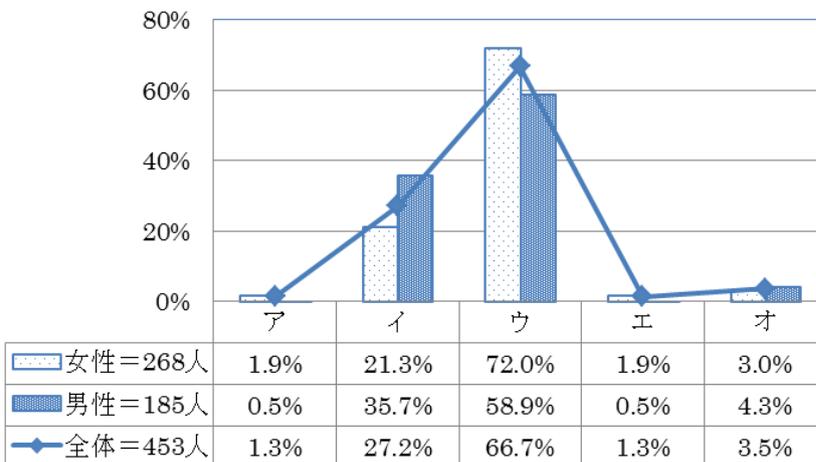
問10- (1) 8 P T A ・自治会等



P T A ・自治会等の活動への参加では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、69.8%と最も高かったが、男女間では8.4ポイントの差があった。

続いて多いのは、「ア. おもに妻が行うべき」で全体の12.2%であった。

問10- (1) 9 家庭問題における決定



家庭問題における最終的な決定では、「ウ.夫婦共同で行うべき」が全体で、66.7%と最も高かったが、男女間では13.1ポイントという大きな差があった。続いて多いのは、「イ. おもに夫が行うべき」で全体の27.2%であった。

※ 次の(2)は、現在ご結婚されている方（事実婚を含む）におたずねします。

（該当されない方は問 12へ）

(2)あなたの家庭では、実際にどなたが次の1から9までの役割を行っていますか。

次のア～オの中から当てはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

項 目 (単位：%)	ア おもに妻が行っている	イ おもに夫が行っている	ウ 夫婦共同で行っている	エ 夫婦が行っていない人	オ ア～エどれにも当てはまらない
1 掃除 (回答数=320人)	67.5	5.6	23.4	2.5	0.9
2 洗濯 (回答数=320人)	75.6	5.0	17.2	1.9	0.3
3 食事の支度、後片づけ (回答数=321人)	69.8	2.5	24.6	2.2	0.9
4 乳幼児の世話 (回答数=302人)	54.6	0.0	16.6	1.0	27.8
5 子どもの教育 (回答数=305人)	38.7	1.0	39.3	1.0	20.0
6 家族の介護 (回答数=305人)	24.6	2.6	21.3	3.0	48.5
7 家計の管理 (回答数=319人)	66.5	12.5	18.5	1.3	1.3
8 PTA・自治会等の活動への参加 (回答数=317人)	47.9	12.9	20.8	1.6	16.7
9 家庭問題における最終的な決定 (回答数=318人)	9.4	33.6	52.8	0.9	3.1

家庭で実際に行っている役割について、「ア.おもに妻が行っている」のは、『2 洗濯』が75.6%、『3.食事の仕度、後片づけ』が69.8%、『1 掃除』が67.5%、『7 家計の管理』が66.5%、『4.乳幼児の世話』が54.6%、『8. PTA・自治会等の活動への参加』が47.9%となっている。

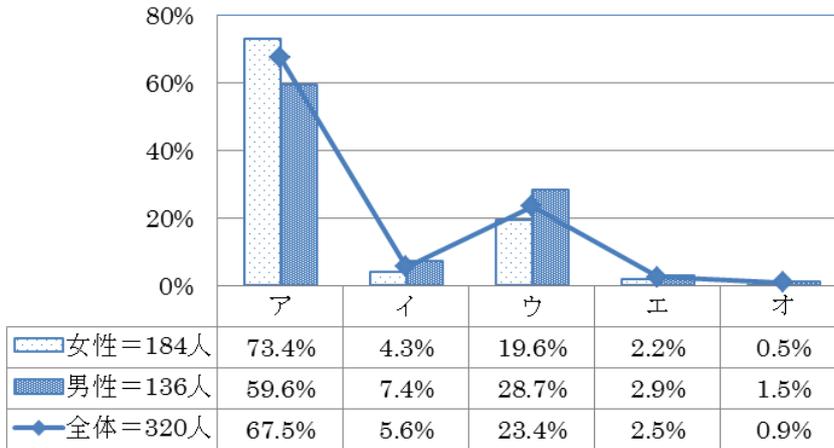
なお、「ウ.夫婦共同で行っている」のは、『9.家庭問題における最終的な決定』が52.8%、『5.子どもの教育』が39.3%となっている。

問 10の(1)と比較すると、多くの人が家庭での役割については、「ウ.夫婦共同で行うべき」と思っているにもかかわらず、結婚している家庭では、「ア.おもに妻が行っている」が圧倒的に多いようである。

問 10- (2) の項目別内訳

ア.おもに妻が行っている イ.おもに夫が行っている ウ.夫婦共同で行っている
 エ.夫婦以外の人が行っている オ.ア～エどれにも当てはまらない

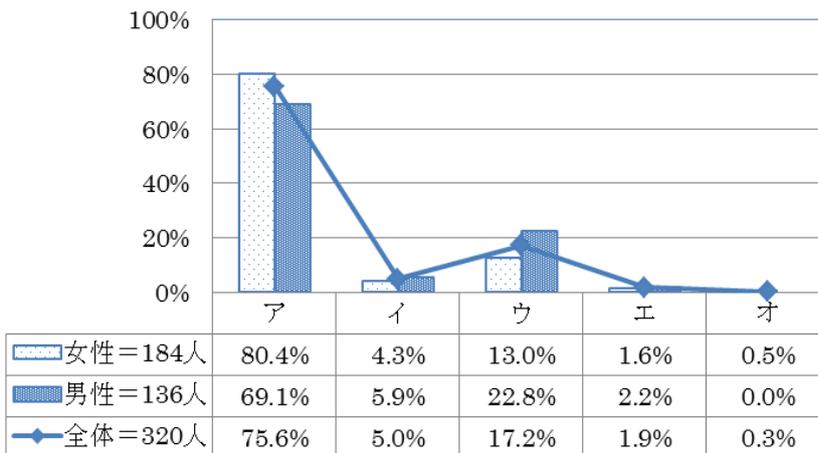
問10- (2) 1 掃除



結婚後の掃除の役割分担では、「ア. おもに妻が行っている」が全体で、67.5%と最も高かったが、男女差は 13.8 ポイントで女性が多い。

「ウ. 夫婦共同で行っている」は全体で 23.4% だが、男女差は 9.1 ポイントで男性が多い。

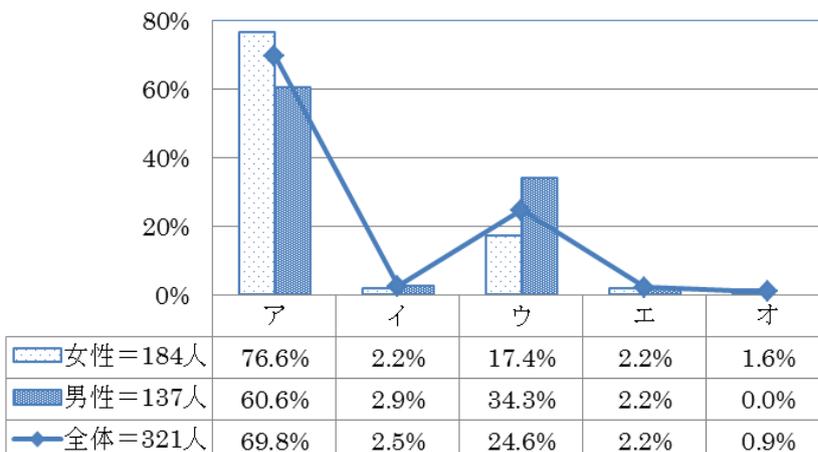
問10- (2) 2 洗濯



結婚後の洗濯の役割分担では、「ア. おもに妻が行っている」が全体で、75.6%と最も高かったが、男女差は 11.3 ポイントで女性が多い。

「ウ. 夫婦共同で行っている」は全体で 17.2% だが、男女差は 9.8 ポイントで男性が多い。

問10- (2) 3 食事の仕度、後片づけ



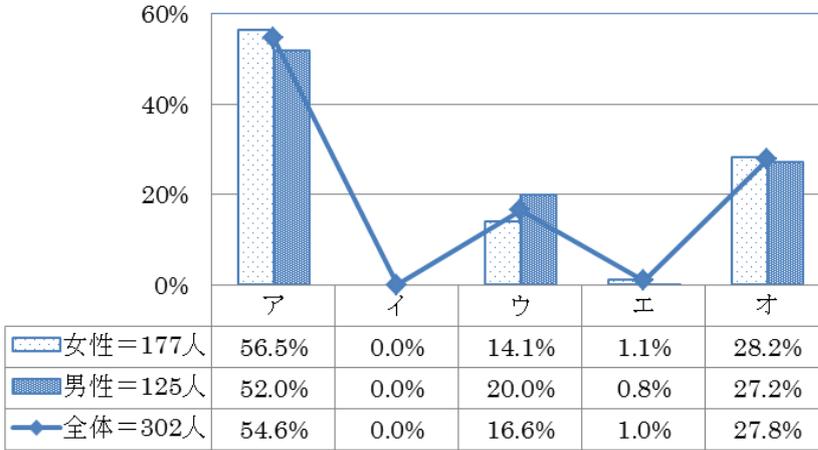
結婚後の食事の仕度、後片づけの役割分担では、「ア. おもに妻が行っている」が全体で、69.8%と最も高かったが、男女差は 16.0 ポイントも差があり女性が多い。

「ウ. 夫婦共同で行っている」は全体で 24.6% だが、男女差は 16.9 ポイントで男性が多い。

問 10- (2) の項目別内訳

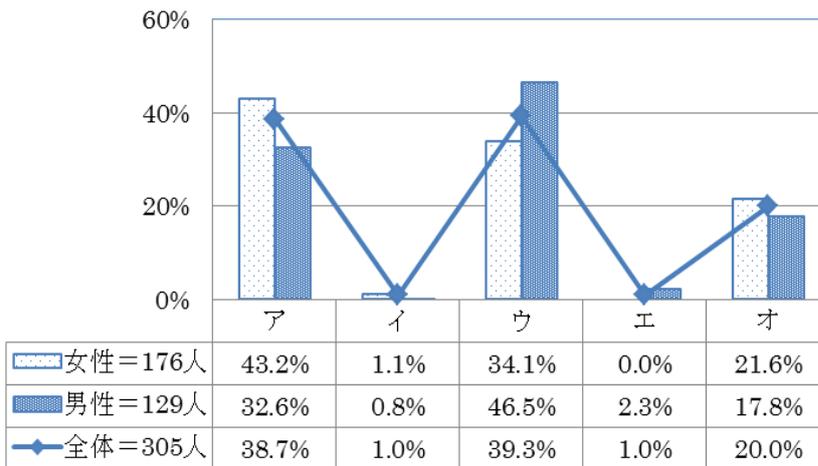
ア.おもに妻が行っている イ.おもに夫が行っている ウ.夫婦共同で行っている
 エ.夫婦以外の人が行っている オ.ア～エどれにも当てはまらない

問10- (2) 4 乳幼児の世話



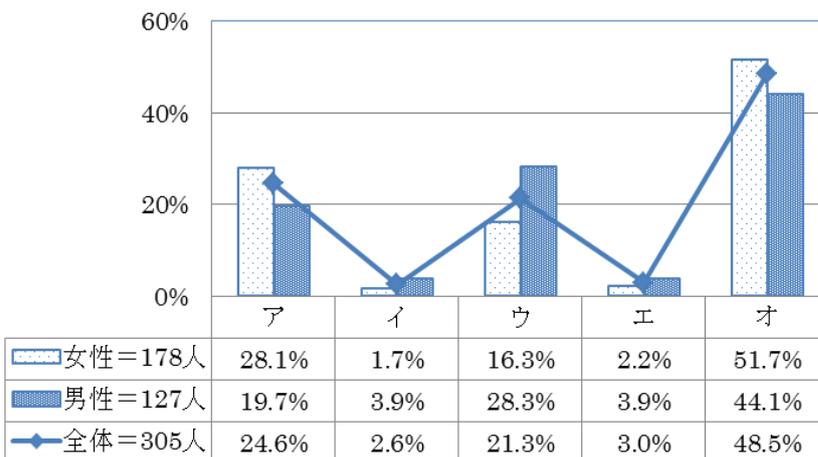
結婚後の乳幼児の世話の役割分担では、「ア. おもに妻が行っている」が全体で、54.6%と最も高く、男女差もあまりなかった。続いて多いのは、「オ. ア～エどれにも当てはまらない」で全体の27.8%であった。

問10- (2) 5 子どもの教育



結婚後の子どもの教育の役割分担では、「ウ. 夫婦共同で行っている」が全体で、39.3%と最も高かったが、男女差は12.4ポイントもあり女性が多い。続いて多いのは、「ア. おもに妻が行っている」で全体の38.7%あった。

問10- (2) 6 家族の介護

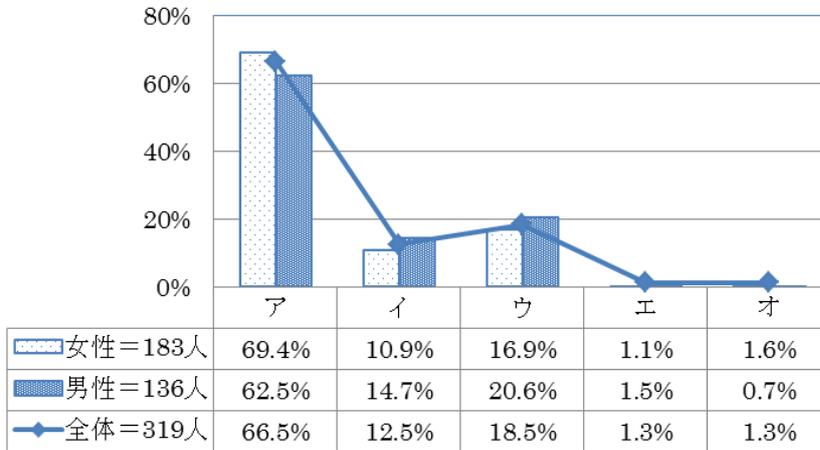


結婚後の家族の介護の役割分担では、「オ.ア～エどれにも当てはまらない」が全体で、48.5%と最も高かった。続いて、「ア. おもに妻が行っている」が24.6%、「ウ. 夫婦共同で行っている」が21.3%であった。

問 10- (2) の項目別内訳

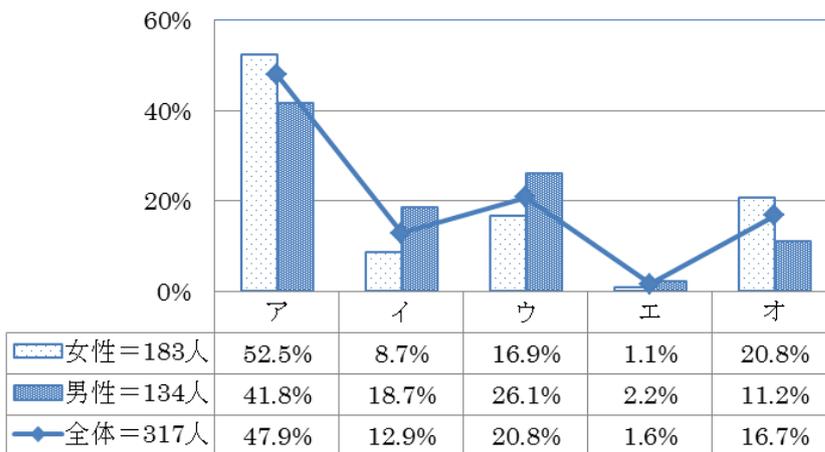
ア.おもに妻が行っている イ.おもに夫が行っている ウ.夫婦共同で行っている
 エ.夫婦以外の人が行っている オ.ア～エどれも当てはまらない

問10- (2) 7 家計の管理



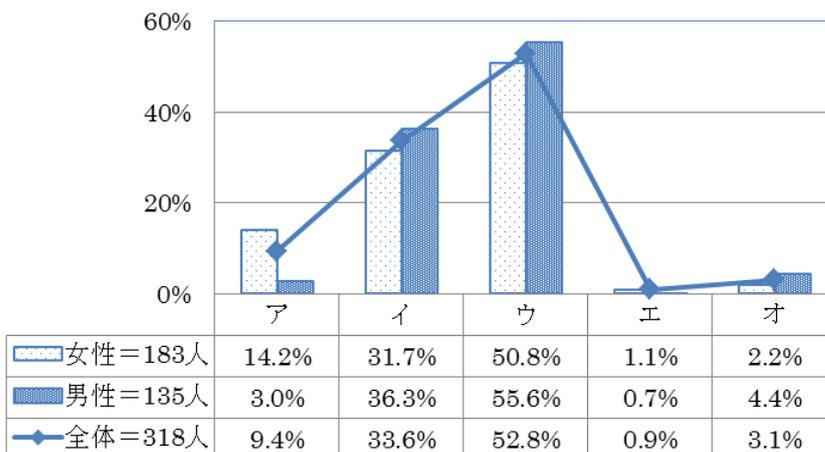
結婚後の『家計の管理』の役割分担では、「ア. おもに妻が行っている」が全体で、66.5%と最も高く、男女差は6.9ポイントで女性が多かった。続いて多いのは、「ウ. 夫婦共同で行っている」で全体の18.5%だが、最も高い「ア」との差は大きい。

問10- (2) 8 P T A ・自治会等



結婚後の『PTA・自治会等』の活動参加の役割分担では、「ア. おもに妻が行っている」が全体で、47.9%と最も高く、男女差は10.7ポイントで女性が多かった。続いて多いのは、「ウ. 夫婦共同で行っている」で全体の20.8%となっており、男女差は9.2ポイントで男性が多かった。

問10- (2) 9 家庭問題における決定



結婚後の『家庭問題における決定』の役割分担では、「ウ. 夫婦共同で行っている」が全体で、52.8%と最も高く、続いて多いのは、「イ.おもに夫が行っている」で全体の33.6%となっている。

問 11 現在ご結婚されている方（事実婚を含む）におたずねします。

あなたの配偶者（パートナー）が家庭で担っている役割について、あなたはどうか思われますか。

次の表の満足度 1～3 から 1つ 選び、さらにその理由をア～シの中から 1つ 選んで囲んでください。

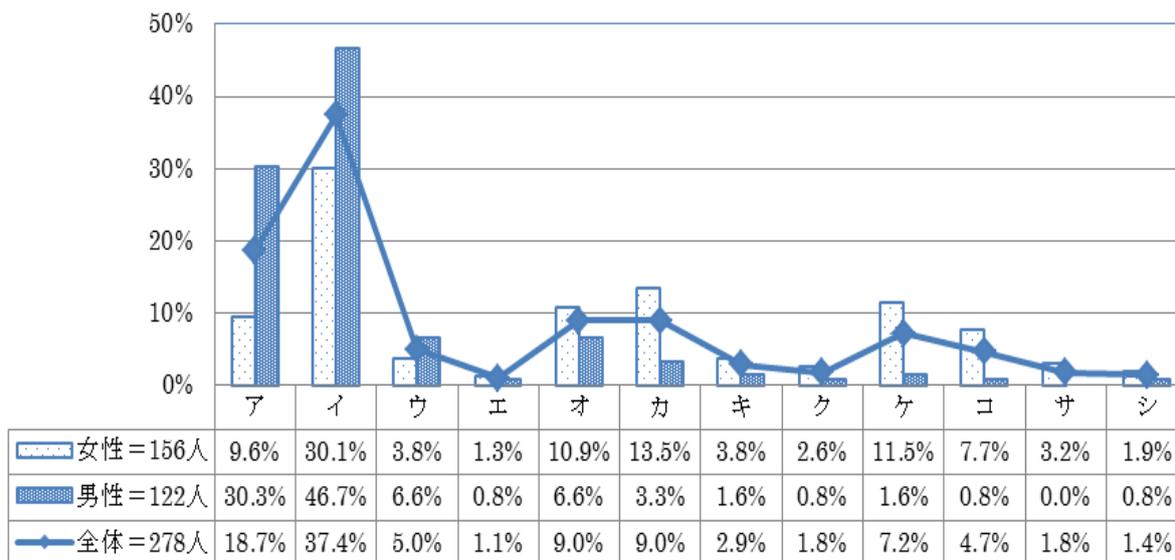
（回答数＝278人）

満足度	理 由	割 合 (単位：%)
1 現状に充分満足している	ア 配偶者(パ-トナ-)は、家事・育児・介護をする時間があり、よくやっている	18.7
	イ 配偶者(パ-トナ-)は、家事・育児・介護をする時間があまり取れない状況の中で、よくやっている	37.4
	ウ 時間のあるなしにかかわらず、家事・育児・介護は自分がするのが当然だと思っている	5.0
	エ その他	1.1
2 もう少しやって欲しい	オ 配偶者(パ-トナ-)には、家事・育児・介護をする時間はあるので、もう少しやってほしい	9.0
	カ 配偶者(パ-トナ-)は、家事・育児・介護をする時間は作れるので、時間を作り、もう少しやってほしい	9.0
	キ 時間のあるなしにかかわらず、家事・育児・介護は配偶者(パ-トナ-)がするのが当然だと思っている	2.9
	ク その他	1.8
3 満足はしていない	ケ 満足はしていないが、配偶者(パ-トナ-)は、時間が取れない状況なので、これ以上家事・育児をやってほしいとは言えない	7.2
	コ 満足はしていない。配偶者(パ-トナ-)には、家事・育児・介護をする時間はあるが、言えない雰囲気がある	4.7
	サ 時間のあるなしにかかわらず、家事・育児・介護は配偶者(パ-トナ-)がするのが当然だと思っている	1.8
	シ その他	1.4

家庭での役割についての満足度で最も高かったのが、「1 現状に充分満足している」の合計が62.2%、「2 もう少しやって欲しい」が22.7%、「3 満足はしていない」が15.1%となっており、現状に充分満足している人が多かった。

その中でも、「イ配偶者(パ-トナ-)は、家事・育児・介護をする時間があまり取れない状況の中で、よくやっている」と思っている人は37.4%と最も高かった。

一方、「キ時間のあるなしにかかわらず、家事・育児・介護は配偶者(パ-トナ-)がするのが当然だと思っている」や「サ時間のあるなしにかかわらず、家事・育児・介護は配偶者(パ-トナ-)がするのが当然だと思っている」の合計は4.7%であった。



「ア.配偶者(パートナー)は、家事・育児・介護をする時間があり、よくやっている」では、女性の9.6%に対し、男性は30.3%と男女間で20.7ポイントの差があり、夫は妻がよくやっていると思っているようである。

「イ.配偶者(パートナー)は、家事・育児・介護をする時間があまり取れない状況の中で、よくやっている」では、女性30.1%に対し、男性は46.7%で、男女間で16.6ポイントの差があり、夫は妻がよくやっていると思っているようである。

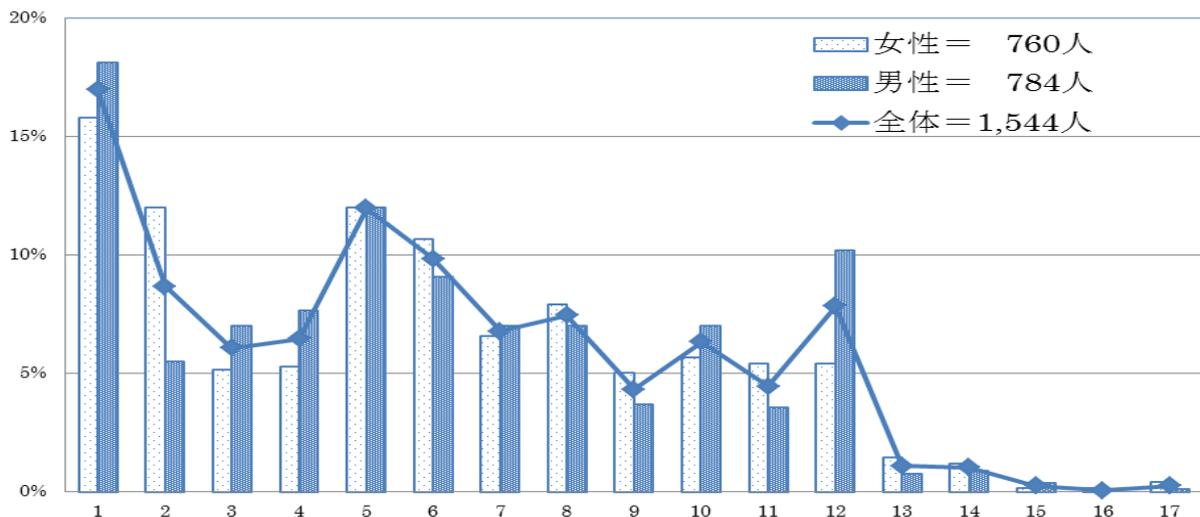
他に男女間で差が大きかったのは、「カ.配偶者(パートナー)は、家事・育児・介護をする時間は作れるので、時間を作り、もう少しやってほしい」が10.2ポイントの差、「ケ.満足はしていないが、配偶者(パートナー)は、時間が取れない状況なので、これ以上家事・育児をやってほしいとは言えない」が9.9ポイントの差で、どちらも女性の方が多くなっている。

3 職業、職場について

問 12 職業をお持ちの方におたずねします。 * (職業をお持ちでない方は問 14へ)
あなたが働いている主な理由は何ですか。

次の 1~17 の中から当てはまるものをすべて選んで囲んでください。

項 目 (回答数=1,544 人)	割合 (単位: %)		
	全体	女性	男性
1 生計を維持するため	17.0	15.8	18.1
2 家計の足しにするため	8.7	12.0	5.5
3 住宅ローンなど借金の返済のため	6.1	5.1	7.0
4 教育資金を得るため	6.5	5.3	7.7
5 将来に備えて貯蓄するため	12.0	12.0	12.0
6 自分で自由に使えるお金を得るため	9.8	10.7	9.1
7 生きがいを得るため	6.8	6.6	7.0
8 自分の能力・技能・資格をいかすため	7.4	7.9	7.0
9 視野を広げたり、友人を得るため	4.3	5.0	3.7
10 社会に貢献するため	6.3	5.7	7.0
11 仕事をするのが好きだから	4.5	5.4	3.6
12 働くのが当然だから	7.8	5.4	10.2
13 時間的に余裕があるから	1.1	1.4	0.8
14 家業であるから	1.0	1.2	0.9
15 特に理由はない	0.3	0.1	0.4
16 わからない	0.1	0.1	0.0
17 その他	0.3	0.4	0.1

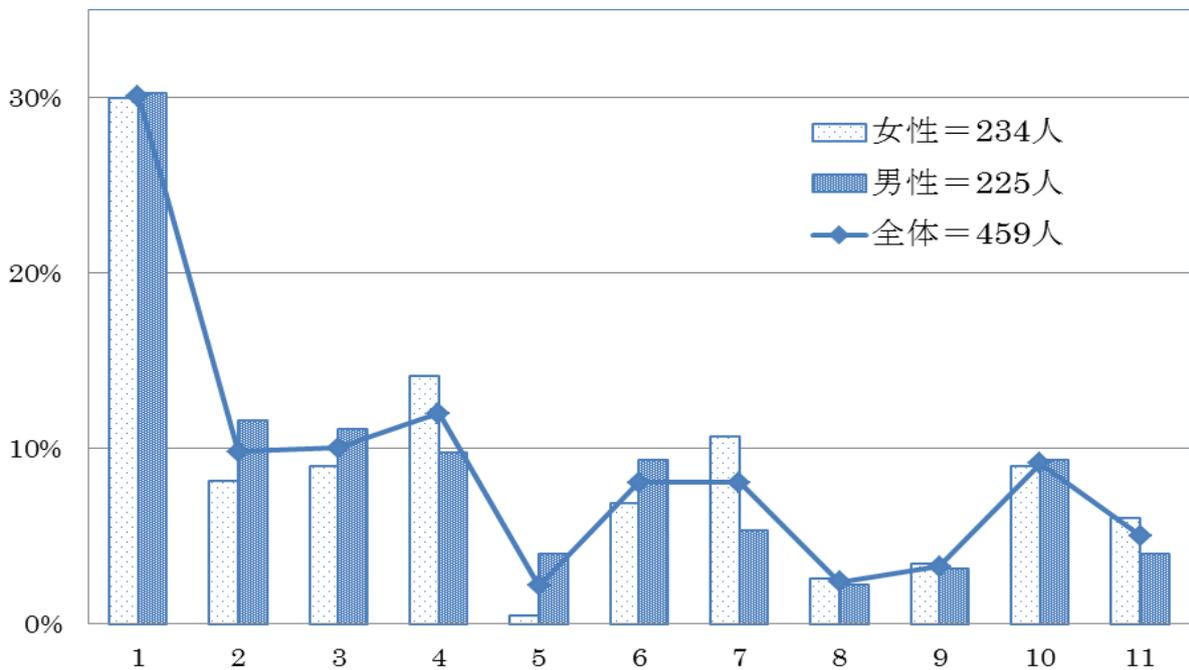


働いている理由の中で最も多かったのは、「1 生計を維持するため」で 17.0%、続いて「5 将来に備えて貯蓄するため」が 12.0%と、生活と将来のために働いている人が多いようである。「2 家計の足しにするため」と「12 働くのが当然だから」の回答では男女差が大きかった。

問 13 職業をお持ちの方におたずねします。

あなたは、今の職場の仕事内容や待遇の面で、性別を理由とした男女間の差があると思えますか。次の1～11の中から当てはまるものを2つまで選んでください。

項 目 (回答数=459人)	割合 (単位：%)		
	全体	女性	男性
1 差はない	30.0	29.9	30.2
2 正社員の中でも賃金に差がある	9.8	8.1	11.6
3 昇進、昇格に差がある	10.0	9.0	11.1
4 能力が正當に評価されない	12.0	14.1	9.8
5 性別を理由に補助的な仕事しかやらせてもらえない	2.2	0.4	4.0
6 幹部職員への登用が性別で偏っている	8.1	6.8	9.3
7 結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある	8.1	10.7	5.3
8 性別により、定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	2.4	2.6	2.2
9 教育・訓練を受ける機会が少ない	3.3	3.4	3.1
10 わからない	9.1	9.0	9.3
11 その他	5.0	6.0	4.0



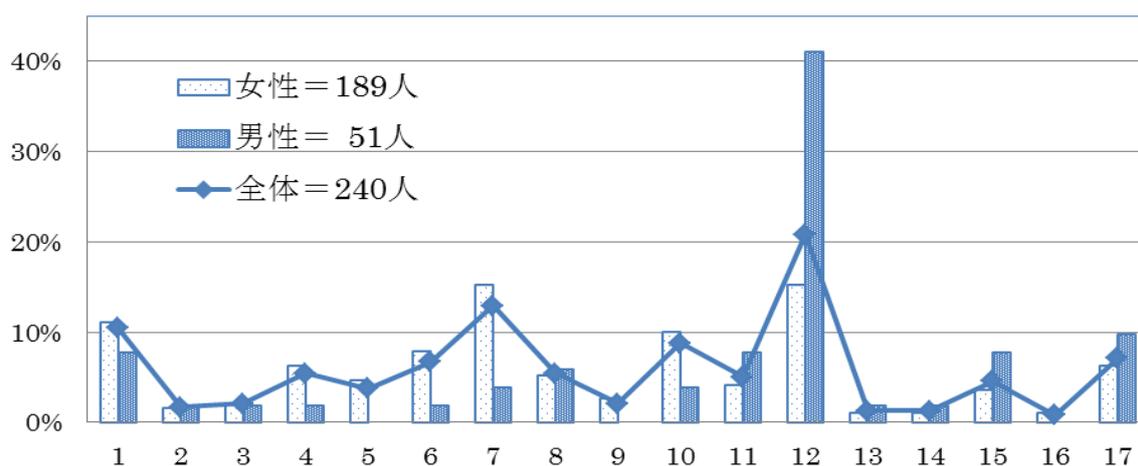
仕事内容や待遇の面で、男女間の差があるかどうかについては、「1 差はない」が30.0%、差がある（2～9）と思う人の合計は55.9%で、何らかの差があると思う人は、差がないと思う人の倍近くあり、多くの人が性別を理由とした男女間の差があると思っているようである。

問 14 職業をお持ちでない方におたずねします。

あなたが職業をお持ちでない主な理由は何ですか。

次の1～17の中から当てはまるものをすべて選んでください。

項 目 (回答数=318人)	割合 (単位：%)		
	全体	女性	男性
1 経済的に働く必要がないから	10.4	11.1	7.8
2 職業をもたない方が自分のやりたいことができるから	1.7	1.6	2.0
3 家にいるのが当然だから	2.1	2.1	2.0
4 家事や育児がおろそかになるから	5.4	6.3	2.0
5 家事の負担が大きいから	3.8	4.8	0.0
6 育児の負担が大きいから	6.7	7.9	2.0
7 健康や体力に自信がないから	12.9	15.3	3.9
8 希望どおりの仕事を得られないから	5.4	5.3	5.9
9 配偶者や子どもなど家族が望まないから	2.1	2.6	0.0
10 親や病気の家族の世話をするため	8.8	10.1	3.9
11 現在、学校に通っているから	5.0	4.2	7.8
12 高齢だから	20.8	15.3	41.2
13 働くことに向いていないから	1.3	1.1	2.0
14 働くことが好きでないから	1.3	1.1	2.0
15 特に理由はない	4.6	3.7	7.8
16 わからない	0.8	1.1	0.0
17 その他	7.1	6.3	9.8



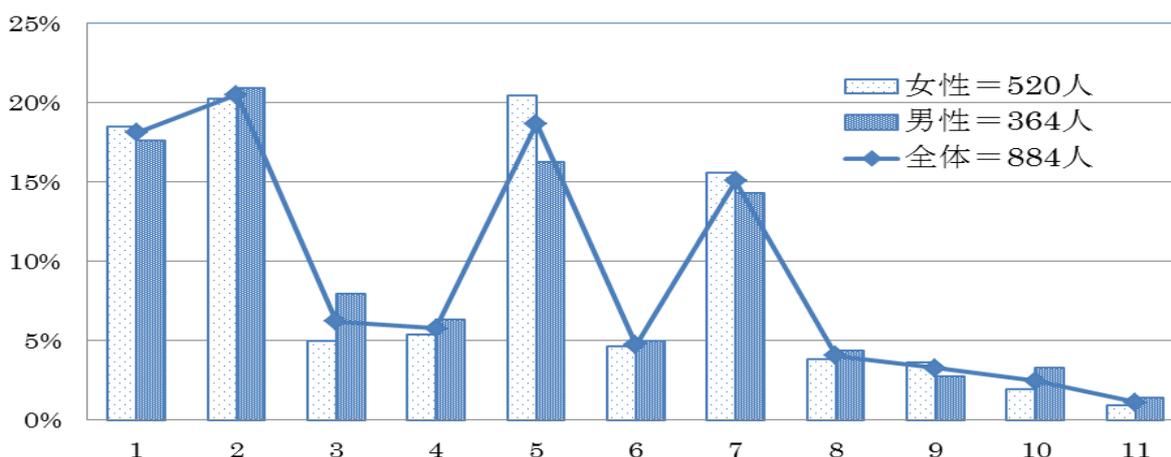
職業を持たない理由で最も多かったのは、「12 高齢だから」が全体で20.8%だが、男女間の差は25.9ポイントで男性が多い。続いて、「7 健康や体力に自信がないから」が12.9%となっており、男女間の差は11.4ポイントで、こちらは女性が多くなっている。

主に家族を理由とする項目(4.5.6.9.10)を選択した女性の合計が31.7%あるのに対し、男性の同じ項目の合計は7.9%と23.8ポイントと大きな差があり、女性は本人の就業より家庭を優先している傾向にある。

問 15 すべての方におたずねします。性別にかかわらず、各自の能力を發揮して生き生きと働くためには、どのようなことが必要だと思われますか。

次の1～11の中から当てはまるものを2つまで選んでください。

項 目 (回答数=884人)	割合 (単位：%)		
	全体	女性	男性
1 同じ価値のある仕事については、パート・正社員で差をつけずに同じ賃金にする	18.1	18.5	17.6
2 労働時間を調整して、地域活動や家庭のことに時間を確保できる仕組みをつくる	20.5	20.2	20.9
3 職場の意思決定の場に女性を積極的に参加させる	6.2	5.0	8.0
4 お茶くみ、コピーとりなど補助的な仕事は、男女の別なく行う	5.8	5.4	6.3
5 育児・介護休暇等を男女ともに取りやすくする	18.7	20.4	16.2
6 職場で、セクシュアル・ハラスメント防止の人権教育をしっかりとる	4.8	4.6	4.9
7 昇給・昇格の条件となる教育を男女で差をつけずに平等に受けられるようにする	15.0	15.6	14.3
8 企業・事業所に対する男女共同参画についての広報・啓発を積極的に行う	4.1	3.8	4.4
9 特にない	3.3	3.7	2.7
10 わからない	2.5	1.9	3.3
11 その他	1.1	1.0	1.4



性別にかかわらず、能力を發揮して働くために必要なことで最も多かったのは、「2 労働時間を調整して、地域活動や家庭のことに時間を確保できる仕組みをつくる」が全体で20.5%と最も高い。

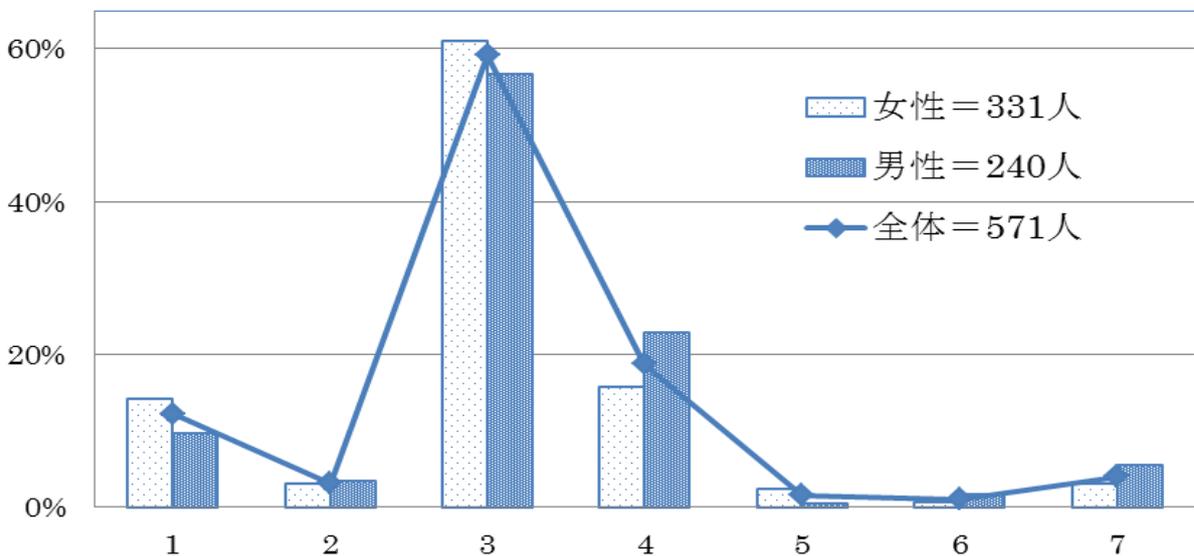
続いて「5 育児・介護休暇等を男女ともに取りやすくする」が18.7%、「1 同じ価値のある仕事については、パート・正社員出差をつけずに同じ賃金にする」が18.1%となっており、働き方や職場環境の改善を希望しているようである。

4 配偶者等からの暴力（DV）に関する意識について

問 16 あなたは、配偶者や親しい異性（恋人等）の間での暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）やその被害について、見たり聞いたりしたことがありますか。

次の1～7の中から当てはまるものをすべて選んでください。

項 目	割合（単位：％）		
	全体	女性	男性
1 身近に被害を受けた人がいる （回答数＝ 70 人）	12.3	14.2	9.6
2 身近な人から、暴力被害について相談されたことがある （回答数＝ 18 人）	3.2	3.0	3.3
3 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている （回答数＝338 人）	59.2	61.0	56.7
4 見たり聞いたりしたことはない （回答数＝107 人）	18.7	15.7	22.9
5 自分自身が被害にあっている （回答数＝ 9 人）	1.6	2.4	0.4
6 その他 （回答数＝ 6 人）	1.1	0.6	1.7
7 わからない （回答数＝ 23 人）	4.0	3.0	5.4

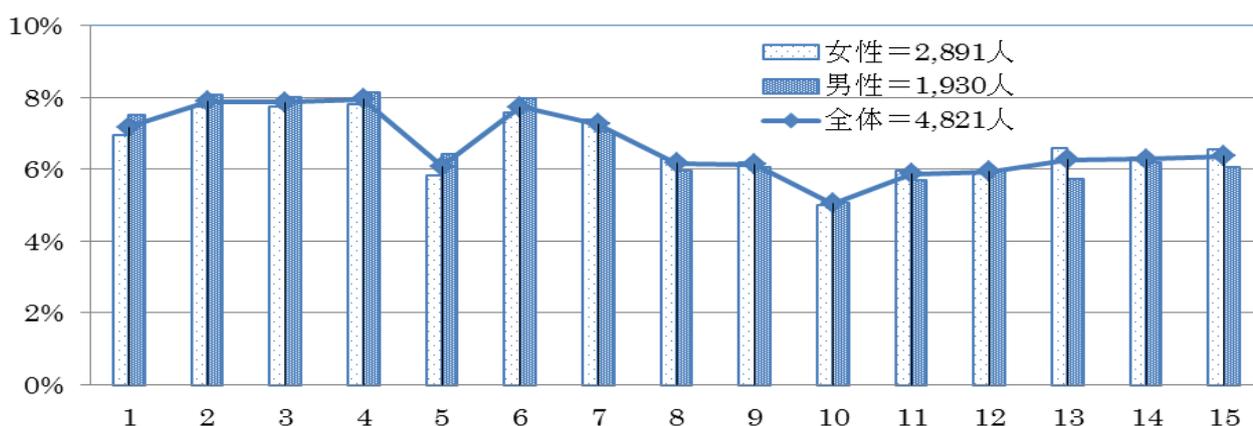


DV やその被害について、見聞きしたことがあるかどうかでは、「3 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が全体で 59.2%あることから、DV という言葉の認知度は高いと思われる。

また、被害にあったり、相談された人は、「1 身近に被害を受けた人がいる」が全体で 12.3%、「2 身近な人から、暴力被害について相談されたことがある」が 3.2%、「5 自分自身が被害にあっている」が 1.6%と、これらを合計すると 17.1%となっている。

問 17 次の 1～15 の中から、あなたが配偶者や親しい異性（恋人等）の間での暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）に含まれると思うものをすべて選んでください。

項 目	割合（単位：％）		
	全体	女性	男性
1 平手で打つ (回答数=346人)	7.2	7.0	7.5
2 こぶしでなぐる (回答数=380人)	7.9	7.7	8.1
3 足でける (回答数=379人)	7.9	7.7	8.0
4 物を使ってなぐる (回答数=383人)	7.9	7.8	8.1
5 なぐるふりをして、おどす (回答数=293人)	6.1	5.8	6.4
6 刃物などを使って、おどす (回答数=373人)	7.7	7.6	8.0
7 相手が嫌がっているのに性的行為を強要する (回答数=350人)	7.3	7.4	7.0
8 避妊に協力しない (回答数=297人)	6.2	6.3	6.0
9 相手が嫌がっているのに性的な映像・雑誌などを見せる (回答数=296人)	6.1	6.2	6.1
10 長期間、無視する (回答数=243人)	5.0	5.0	5.1
11 相手の行動を監視したり、交友関係を制限して干渉する (回答数=283人)	5.9	6.0	5.7
12 相手のプライドが傷つくようなことを言う (回答数=286人)	5.9	5.9	6.0
13 大声でどなる (回答数=302人)	6.3	6.6	5.8
14 物をこわす (回答数=303人)	6.3	6.3	6.2
15 生活費を渡さないなど、経済的に圧力かける (回答数=307人)	6.4	6.6	6.1

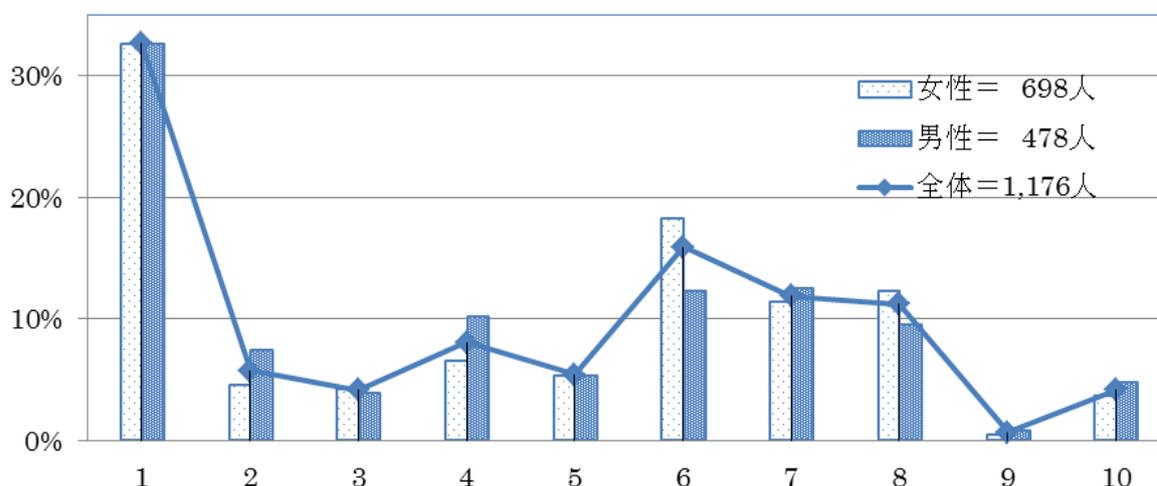


DVの定義で最も多かったのが、「2 こぶしでなぐる」「3 足でける」「4 物を使ってなぐる」の3項目が全体で各7.9%と最も多く、続いて「6 刃物などを使って、おどす」が7.7%となっている。

DVの分類上、身体的暴力に当てはまる項目1～6の合計は44.7%、性的暴力の項目7～9の合計は19.6%、精神的暴力の項目10～14の合計は29.4%、経済的暴力の項目15は6.4%となっており、身体的暴力が最も多く、DV=身体的暴力のイメージが強いようであるが、精神的な暴力や経済的な暴力があることも少しづつではあるが認知されつつある。

問 18 次の1～10の中から、配偶者や親しい異性（恋人等）の間での様々な暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）を受けたときの相談窓口として、あなたが知っているものをすべて選んでください。

項 目	割合（単位：％）	割合（単位：％）		
		全体	女性	男性
1 警察（回答数＝384人）	32.7	32.7	32.6	
2 法務局・人権擁護委員（回答数＝68人）	5.8	4.6	7.5	
3 裁判所（回答数＝49人）	4.2	4.3	4.0	
4 長崎県弁護士会（回答数＝95人）	8.1	6.6	10.3	
5 民間の機関（回答数＝64人）	5.4	5.4	5.4	
6 長崎県子ども・女性・障害者支援センター（回答数＝187人）	15.9	18.3	12.3	
7 長崎市役所（安全安心課・市民相談窓口）（回答数＝140人）	11.9	11.5	12.6	
8 長崎市役所（アマランス※）相談窓口（回答数＝132人） ※長崎市男女共同参画推進センター	11.2	12.3	9.6	
9 その他の機関（回答数＝8人）	0.7	0.6	0.8	
10 知らない・わからない（回答数＝49人）	4.2	3.7	4.8	



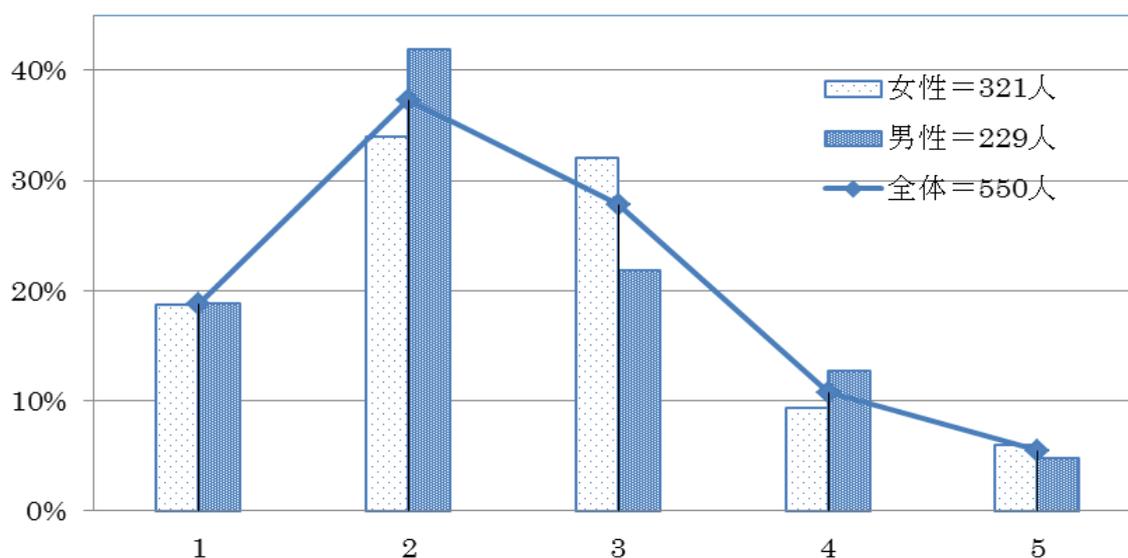
DVの相談窓口として知っているもので最も多かったのが、「1 警察」が全体で32.7%、続いて「6 長崎県子ども・女性・障害者支援センター」が15.9%となっている。

長崎市としては、「7 安全安心課・市民相談窓口」が11.9%、「8 アマランス相談窓口」が11.9%ということで、合わせて23.1%となっている。

このように、DVについての相談機関を知っている人が増えている一方、「10 知らない・わからない」と思っている人が4.2%いる。

問 19 長崎市では、配偶者や親しい異性（恋人等）の間での様々な暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）を防止するための広報・啓発活動を行っていますが、あなたはそれを知っていますか。また、その広報などを見たり聞いたりしたことはありますか。次の1～5の中から当てはまるものをすべて選んでください。

項 目	割合（単位：％）		
	全体	女性	男性
1 知っている（回答数＝103人）	18.7	18.7	18.8
2 知らない（回答数＝205人）	37.3	34.0	41.9
3 見たり、聞いたりしたことがある（回答数＝153人）	27.8	32.1	21.8
4 見たり、聞いたりしたことはない（回答数＝59人）	10.7	9.3	12.7
5 わからない（回答数＝30人）	5.5	5.9	4.8



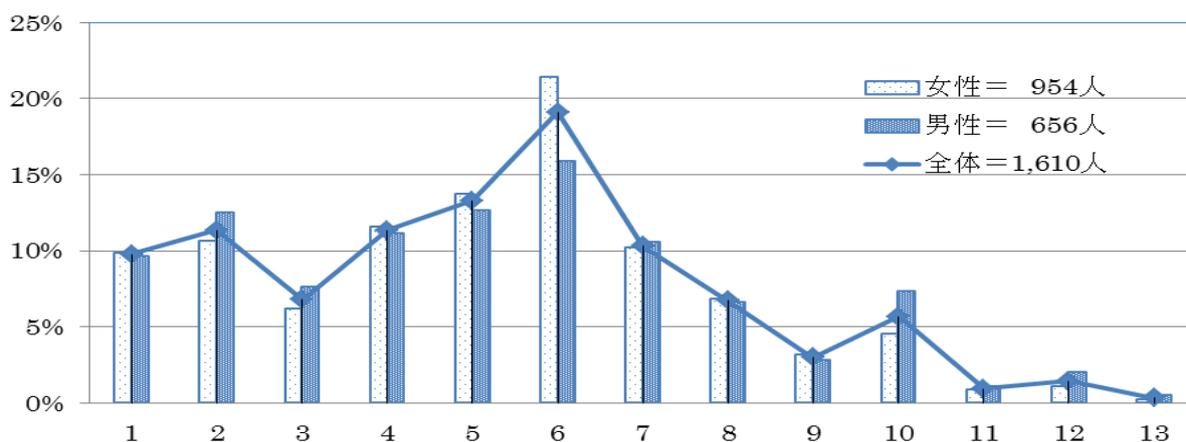
DV防止の啓発活動を見たり聞いたりしたことがあるでは、「2知らない」が全体で37.3%、続いて「3見たり、聞いたりしたことがある」が27.8%となっている。

「1知っている」と「3見たり、聞いたりしたことがある」の全体の合計は46.5%で、「2知らない」と「4見たり、聞いたりしたことはない」の合計は48.0%と、知っている人と知らない人は、ほぼ同数となっている。

5 その他

問 20 男性も女性も暮らしやすい「男女共同参画社会」の実現のため、今後、長崎市をはじめとする行政は、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
次の1～13の中から当てはまるものをすべて選んでください。

項 目 (回答数=1,610人)	割合 (単位：%)		
	全体	女性	男性
1 法律や制度の面で見直しを行う	9.8	9.9	9.6
2 女性を政策決定の場に積極的に登用する	11.4	10.6	12.5
3 各種団体の女性のリーダーを養成する	6.8	6.2	7.6
4 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	11.4	11.5	11.1
5 女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する	13.3	13.7	12.7
6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	19.1	21.4	15.9
7 学校教育や社会教育等の生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	10.3	10.2	10.5
8 女性や男性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する	6.7	6.8	6.6
9 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	3.0	3.1	2.7
10 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	5.7	4.5	7.3
11 特になし	0.9	0.8	1.1
12 分からない	1.4	1.0	2.0
13 その他	0.3	0.2	0.5



男女共同参画社会の実現のため、行政が力を入れる分野で最も多かったのが、「6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が全体で 19.1%、続いて「5 女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少なかった分野などへの女性の進出を促進するため、職業教育や職業訓練を充実する」が 13.3%となっており、少子高齢化のこの時代では、子育て・介護の問題や女性の社会進出に目が向けられていることがうかがえる。

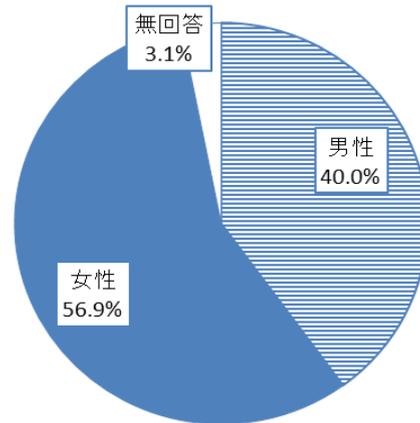
問 21 長崎市で「男女共同参画社会」を実現するため、あなたのアイデアやご意見などをお聞かせください。（61 ページに以降に一覧表を掲載しています。）

○ 回答者の属性

※ 最後に、今回の調査回答を統計的に分析するために、あなた様ご自身のことについて、おたずねします。1～6について、それぞれ当てはまるものを選んでください。

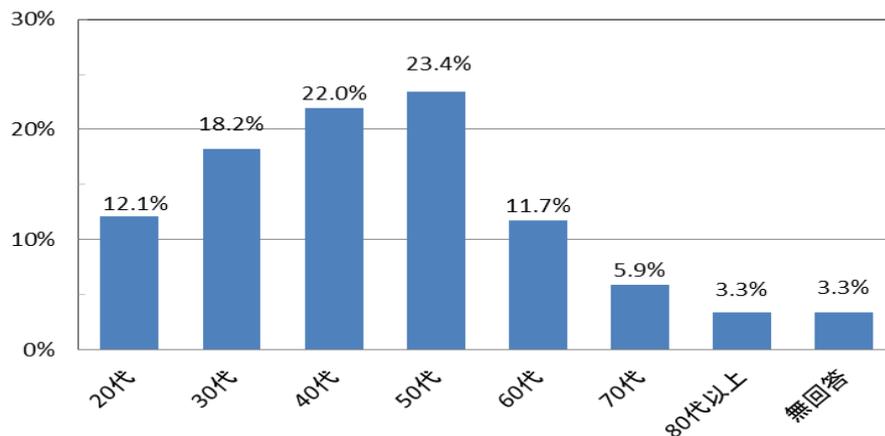
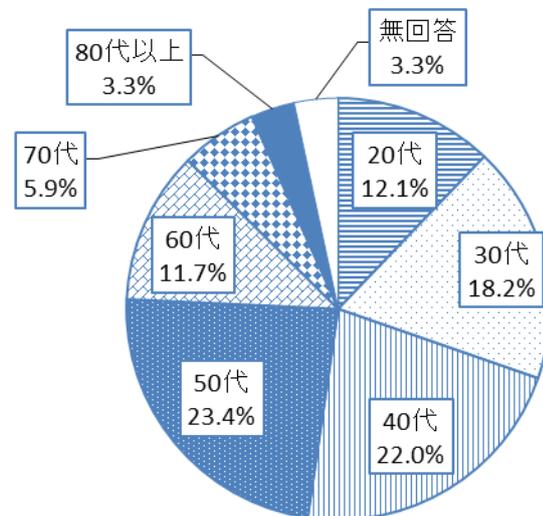
1 あなたの性別

性別	人数
女性	272
男性	191
無回答	15
計	478



2 あなたの年齢

年代	人数
20代	58
30代	87
40代	105
50代	112
60代	56
70代	28
80代以上	16
無回答	16
計	478



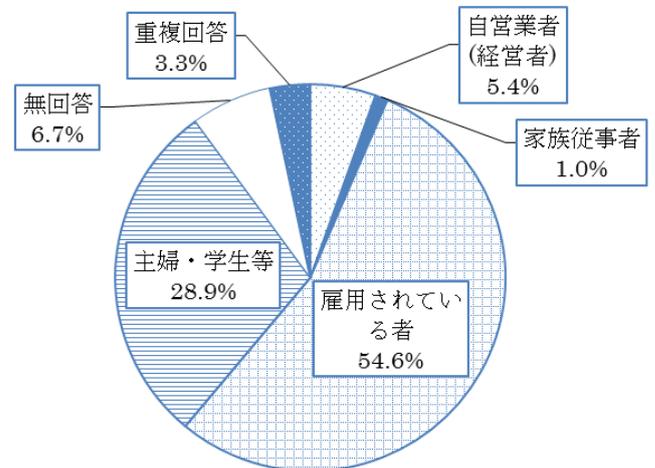
③ あなたの職業

	業 種	件数	割合
自営業者 (経営者)	1 農業、林業、漁業	3	0.6%
	2 商工業、製造業、サービス業	15	3.1%
	3 自由業（開業医、弁護士等）	8	1.7%
家族従事者	4 農業、林業、漁業	1	0.2%
	5 商工業、製造業、サービス業	4	0.8%
	6 自由業（開業医、弁護士等）	0	0.0%
雇用され ている者 (役員を含む)	7 役員・管理職	25	5.2%
	8 専門・技術職	106	22.2%
	9 事務職	51	10.7%
	10 販売・サービス・保安職	60	12.6%
	11 農林漁業職	1	0.2%
	12 生産・輸送・建設・労務職	18	3.8%
無 職	1 主婦・主夫	92	19.2%
	2 学生	13	2.7%
	3 その他	33	6.9%
	無 回 答	32	6.7%
	重 複 回 答	16	3.3%
	計	478	100.0%

7~12 内訳	件数	割合
ア.常勤	172	62.3%
イ.非常勤	15	5.4%
ウ.パート	70	25.4%
エ.契約社員	12	4.3%
オ.その他	7	2.5%
計	276	100.0%

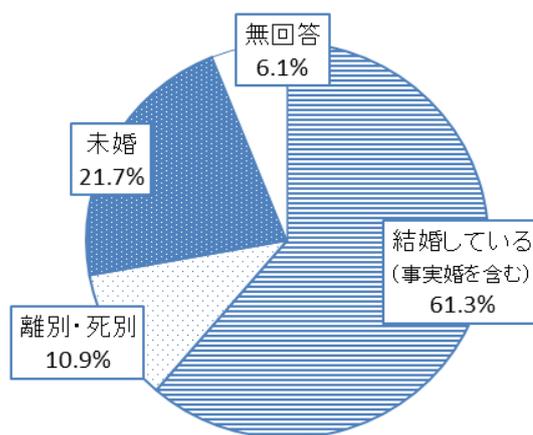


	件数	割合
自営業者(経営者)	26	5.4%
家族従事者	5	1.0%
雇用されている者	261	54.6%
主婦・学生等	138	28.9%
無回答	32	6.7%
重複回答	16	3.4%
計	478	100.0%



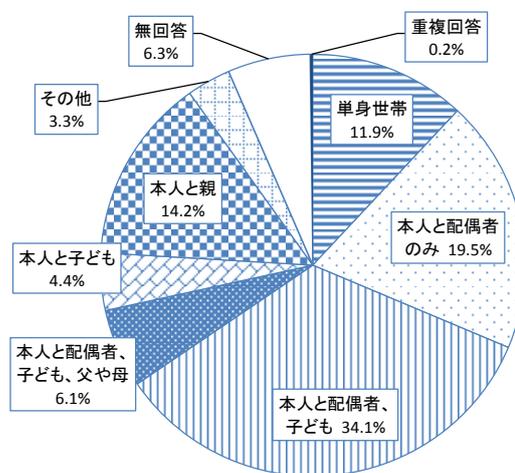
4 あなたは現在結婚されていますか。

	件数	割合
結婚している (事実婚を含む)	293	61.3%
離別・死別	52	10.9%
未婚	104	21.7%
無回答	29	6.1%
計	478	100.0%



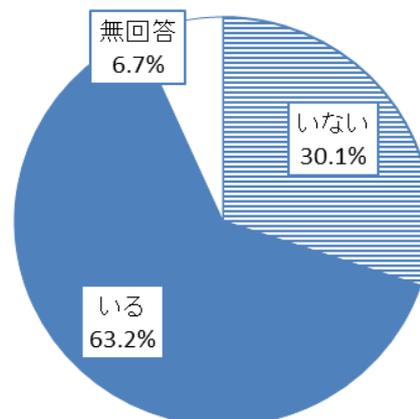
5 あなたの世帯の構成

	件数	割合
単身世帯	57	11.9%
本人と配偶者のみ	93	19.5%
本人と配偶者、子ども	163	34.1%
本人と配偶者、子ども、父や母	29	6.1%
本人と子ども	21	4.4%
本人と親	68	14.2%
その他	16	3.3%
無回答	30	6.3%
重複回答	1	0.2%
計	478	100.0%



6 お子さん (別居を含む) はいらっしゃいますか。

	件数	割合
いない	144	30.1%
いる	302	63.2%
無回答	32	6.7%
計	478	100.0%



まとめ

今回の調査は、長崎市男女共同参画推進条例第 16 条の規定に基づき、職場、学校、地域、家庭その他あらゆる分野における男女共同参画に関して、長崎市が実施した。調査内容は平成 22 年度に行った「男女共同参画に関する意識調査」を参考にした。

調査対象は、20 代以上の市民 1,500 人で、平成 22 年度に実施した際の回収率 37.5% (標本数 1,500 人) に対し、今回は 31.9%と 5.6 ポイント下回っている。

男女共同参画社会基本法の施行から 15 年が経過し、女性の活躍推進が政府の成長戦略の中核に位置付けられるなど、「男女共同参画」への意識は少しずつ変化していると思われる。

調査の結果、男女の地位は対等であるかについては、学校教育の場では「対等である」という回答が 30%を超えているが、政治の場、社会の慣習・しきたりなど、社会全体では 10%を下回り、社会全体として「男性が重視されている」「どちらかといえば男性が重視されている」の合計は 70%以上となり、社会では、まだまだ男性が重視されていると思っている人が多いようである。

一方、「男の子も、家事ができるように育てる方がよい」に対しては、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計は 80%以上となり、晩婚化や一人世帯の増加などもあってか、男性の家事参加に肯定的な結果も見られた。

家庭生活と仕事の優先度については、理想としては「家庭生活・仕事をともに優先」が 50%を超え、半数以上は両立したいと考えているが、現実としては「仕事を優先」が 30%を超えていた。

また、家庭での役割分担についても、家事・育児・介護など全ての分野において、「夫婦共同で行うべき」と考える人が 45%を超えているが、実際には、掃除・洗濯・食事の仕度等・乳幼児の世話・家計の管理・PTA など「おもに妻が行っている」割合が多く、ワーク・ライフ・バランスの理想と現実には差があるようである。

男性が女性とともに家事などへ積極的に参加していくために必要なことへの回答を見ると、まずは、コミュニケーションをとり家事への評価を高め、固定的な性別役割分担意識を減らすことで、男性自身の家事等への抵抗感が減るのではないと思われる。

DV については、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」との回答が半数以上あり、「見たり聞いたりしたことはない」とする人が約 20%いた。DV を受けた時の相談窓口について、「知らない・わからない」とした人が 4%いることから、引き続き DV 関連の啓発、周知徹底を図る必要があると思われる。